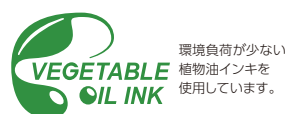


# 住江織物グループ CSRレポート 2018

## 住江織物株式会社

### 本書に関するお問い合わせ先

住江織物株式会社 CSR推進室  
〒542-8504 大阪市中央区南船場3-11-20  
TEL:06-6251-6817 FAX:06-6251-6806  
E-Mail:csr@sin.suminoe.co.jp  
URL <http://suminoe.jp/>



印刷工程で有害廃液を出さず、湿し水が不要な「水なし印刷方式」を採用しています。



ユニバーサルデザイン(UD)の考えに基づいた見やすいデザインの文字を採用しています。



# 豊かな暮らしと 社会への貢献を目指し、 CSR活動を推進してまいります。

住江織物グループの事業活動は、明治時代に手織のささやかな家内工場から始まりました。  
創業者の良質なモノづくりにこだわった熱心さと志を引継ぎ、社会の課題やニーズに誠実に  
お応えしていくことによって、豊かな暮らしと社会の創造に貢献してまいります。

## 住江織物グループのCSR<sup>※1</sup>

### 会社の目的

よい製品を生産し、販売し、  
社業の隆盛をはかり  
社会の向上に貢献する。

### 社訓

業界の先駆者としての  
誇りをもち、和協、誠実、  
不屈の精神をつらぬく。

### 企業行動規範

**1**  
法令その他の社会的規範を  
遵守し、公正で健全な  
企業活動を行います。

**2**  
よい製品を生産し、販売し、  
社会の向上に貢献します。

**3**  
従業員の人格と  
健康・安全に配慮し、  
従業員を公正に処遇します。

**4**  
ステークホルダー(利害関係人)  
との関係を尊重します。

**5**  
良き「企業市民」として  
積極的に地域社会に  
貢献します。

**6**  
地球環境への影響を重視し、  
環境保全に取り組みます。

### CSR活動方針

住江織物グループでは、  
「事業を通じたCSR」と  
「経営の土台となるCSR」を  
両輪として、  
更なる企業価値の向上、  
広く社会からの信頼を  
得ることを目指し、  
活動の方針を  
次の通り掲げます。

#### 事業を通じたCSR

- KKR+A(健康・環境・リサイクル+  
アメニティ)を中心とした、  
地球環境・社会に貢献し、  
人々の暮らしや気持ちを  
豊かにする商品を提供する。
- グローバル戦略を推進し、  
当社の製品が多くの人々に  
ご使用いただくこと、  
KKR+Aを世界各地に  
広げていくことを目指す。

#### 経営の土台となるCSR

- 公正で透明性の高い  
ガバナンス体制を確立する。
- コンプライアンス<sup>※2</sup>(法令遵守)  
を徹底し、高い倫理観をもって  
企業活動を行う。
- 従業員の働きやすさ・  
多様性に配慮するとともに、  
価値ある仕事を通じて  
成長することを支援する。

私たちはCSR活動方針に基づき、  
以下の通り価値を提供していくこと  
で、ステークホルダー(利害関係人)  
の皆様との良好な関係を構築すると  
ともに、地球環境に寄与し次世代へ  
の責任を果たしてまいります。

|                |           |                                                                                              |
|----------------|-----------|----------------------------------------------------------------------------------------------|
| 主な<br>ステークホルダー | お客様       | お客様の声に真摯に向き合い誠実な対応を心掛けます。お客様とともに快適な空間を作り上げることが私たちの喜びとし、信頼を得ることを目指します。また、品質向上の取り組みを推進してまいります。 |
|                | お取引先様     | お取引先様との関係を大切にし、共にお客様への対応力の向上を目指していきます。価格・品質・納期など合理的な基準によって選定を行い、公正で対等な取引に努めます。               |
|                | 株主・投資家の皆様 | 適正な利益の確保により、株主・投資家の皆様へ還元することを目指してまいります。IR活動により、積極的な情報開示を進めてまいります。                            |
|                | 地域社会の皆様   | 各国、また地域社会との交流を深め、文化・歴史を理解するとともに、社会貢献活動を行ってまいります。                                             |
| 従業員            | 従業員       | 従業員一人ひとりの人格や個性を尊重し、働きやすい職場環境を整備してまいります。また、能力を最大限に発揮し、課題を解決していこうという従業員の想いに応えてまいります。           |
|                | 地球環境      | 地球環境の維持と改善の一助となる魅力的な環境商品・技術を生み出すことに力を注ぎます。また、事業活動を通じ環境負荷低減活動(省エネルギー、省資源、廃棄物削減など)に努めてまいります。   |

※1 CSR: Corporate Social Responsibilityの略称で、「企業の社会的責任」と訳される。

※2 コンプライアンス: 企業が法律や企業倫理を遵守した判断や行動をし、社会からの期待や信頼に応えること。



# 135年の伝統と技術とともに、新しい分野へ挑戦します。



## 〈はじめに〉

平成最後の年は、天災が多い1年となりました。大阪府北部を震源とする地震、平成30年7月豪雨、台風第21号および北海道胆振東部地震により、亡くなられた方々に謹んでお悔やみ申し上げますとともに、被害を受けられた皆様に心よりお見舞い申し上げます。明治16年に創業した当社は、皆様に支えられ、これまで天災や世界大戦、経済危機など、数々の苦難を乗り越えてまいりましたが、改めて災害に対するリスク管理の重要性を認識しております。当社は、以前より、安否・被災状況などの情報収集を重視したBCP行動計画を策定しており、社内緊急連絡ルールに従って安否確認訓練を実施しております。災害発生時、従業員とその家族の身の安全を確認すると同時に、お客様への迅速で正確な情報発信ができるよう、グループ全体で対策の強化に取り組んでまいります。

## 〈第5次中期3ヵ年経営計画「2020」〉

当社は、「企業ガバナンスの再構築」と「事業の成長」という2つのテーマのもと、第5次中期3ヵ年経営計画「2020」を2017年6月よりスタートいたしました。

### ●「企業ガバナンスの再構築」

経営幹部と従業員が情報共有し、双方向コミュニケーションを図りながら一体となって諸問題の解決にあたる体制づくりを最も重視しております。誰もが同じ目線で課題を把握できるよう、「週報」・「月報」を全社統一フォーマットにし、また経営幹部が各現場に赴き、従業員と直接意見交換を行う「歩き回る経営」を実践しております。併せて「働きやすさアンケート」や「中堅社員による職場環境改善プロジェクト」などを実施しており、より風通しの良い企業風土の醸

成に取り組んでおります。また、収支や在庫といった情報をタイムリーに把握し、経営判断に活かせるよう、グローバルで基幹システムの再構築を進めております。

### ●「事業の成長」

「取扱い商材の拡大」「グローバル化の強化」「高付加価値商材の開発・販売」を軸に、カーペットと自動車・車両向けシート地の製造・販売をコア事業に据え、新規商材の開発や積極的な海外展開を図っております。「グローバル化の強化」の施策としては、2018年4月にタイ・チェンマイにて、カーマット製造事業を開始いたしました。自動車内装事業では、現在6ヵ国12ヵ所に拠点を設けており、今後もグローバルで最適な供給体制を構築し、国際競争力を強化してまいります。

## 〈環境への取り組みについて〉

1980年、当社が初めて世に出した国産タイルカーペットは、当時としては画期的な商品として注目を集め、オフィスなどで広く利用されるようになりました。発売当初は、タイルカーペットの裏材にアスファルトを使用しておりましたが、その後、技術の進歩に伴い、ポリ塩化ビニルを使用した商品が登場、現在のタイルカーペットの主流となりました。しかしながら、使用済みタイルカーペットは埋め立て処分する他なく、世界的な環境意識の高まりを背景に、当社はより環境にやさしい商品の開発に取り組んでまいりました。

2011年、試行錯誤の末、独自技術による水平循環型リサイクルタイルカーペット「ECOS®（エコス）」をリリースいたしました。ECOS®は、裏材に使用済みタイルカーペットを再資源化したポリ塩化ビニルのリサイクルパウダーを使用

し、世界でも類を見ない、最大84%という高い再生材比率を達成しながら、コストは従来品と変わらず、デザイン面でも高い評価をいただいております。

同一商品内で「生産→使用→再生」を繰り返す、クローズド・ループ・システムを確立する、そうしたメーカーとしての「つくる責任」を果たすため、これからも「K（健康）K（環境）R（リサイクル）+A（アメニティ：快適さ）」を開発理念として、チャレンジしてまいります。

## 〈伝統とチャレンジ〉

当社グループは、日本のインテリアのパイオニアメーカーとして、「空間を彩り、質の高い生活を提供すること」で、創業以来135年にわたって事業を続けてまいりました。昨今では、さらなるグローバル展開や、浴室向けオレフィン系床材をはじめとした非繊維分野への事業拡大にも積極的に取り組んでおります。

新しい領域へと飛躍を続ける一方で、当社は現在でも国会議事堂や迎賓館といった日本の伝統工芸美術の粋が集まる建築物に、手織り絨毯などの美術織物を納めております。当社の祖業であり、また日本の歴史的産業でもあるこの伝統技術を守り、育んでいくことは、当社による文化への貢献と考えております。

今後も、持続可能な社会の実現にとって必要とされる企業であり続けられるよう、住江織物グループは邁進してまいります。

2018年12月

住江織物株式会社  
代表取締役会長兼社長

吉川 一三



|                            |    |
|----------------------------|----|
| 住江織物グループのCSR               | 02 |
| トップメッセージ                   | 03 |
| 会社概要                       | 06 |
| グループ概要 住江織物グループの製品         | 07 |
| 住江織物グループの拠点                | 09 |
| 特集① 住江織物グループが誇る技術・品質       | 11 |
| 特集② IN FOCUS 新入社員研修        | 15 |
| コーポレートガバナンス/CSR推進体制        | 17 |
| 2017年度のCSR活動実績             | 19 |
| 再発防止の取り組み                  | 21 |
| 3つのプロジェクトの取り組み             | 23 |
| 社会性 お客様とともに(納入実績)          | 25 |
| 従業員とともに                    | 29 |
| お取引先様とともに/<br>リスクマネジメント    | 33 |
| 環境マネジメント KKR+Aのテーマのもとに     | 35 |
| 第4次中期行動目標<br>ーエコチャレンジ2018ー | 37 |
| エコチャレンジ2018<br>(2017年度実績)  | 38 |
| 社会貢献活動                     | 41 |
| 歴史コラム・編集後記                 | 42 |

■ 対象期間  
2017年度(2017年6月～2018年5月)  
但し、一部対象期間外の活動も含みます

■ 報告対象範囲  
住江織物(株)並びに国内外の連結対象子会社  
但し、項目により対象範囲が異なります。

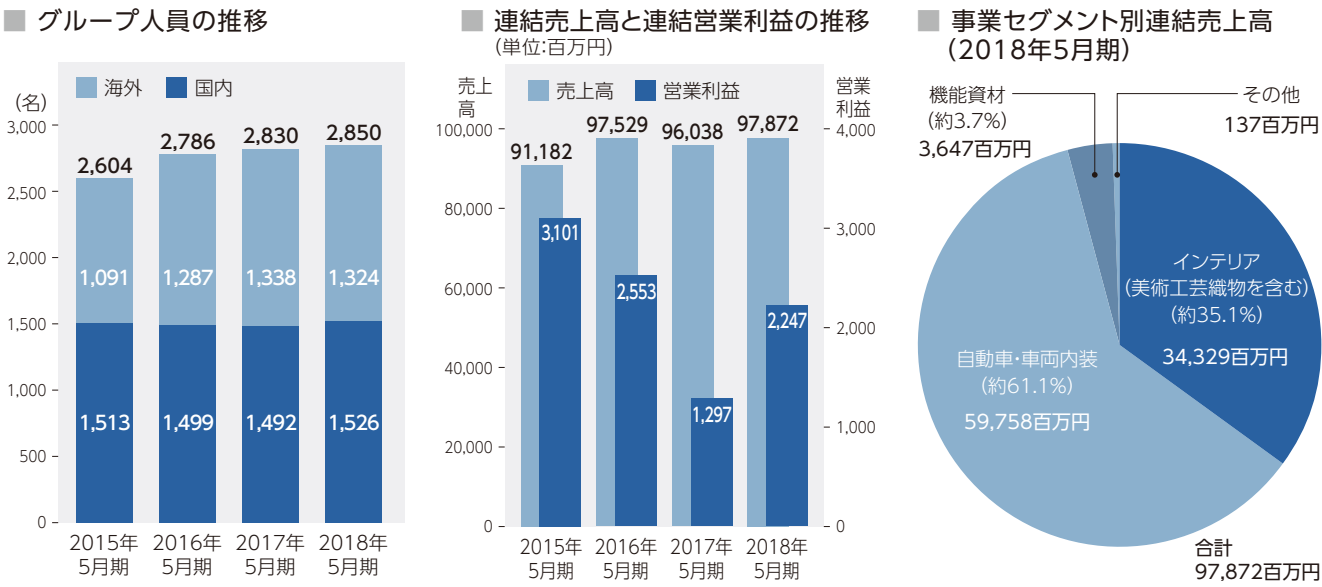
■ 参考ガイドライン  
ISO26000(社会的責任に関する手引き)

■ 発行年月  
2018年12月(次回発行予定2019年12月)



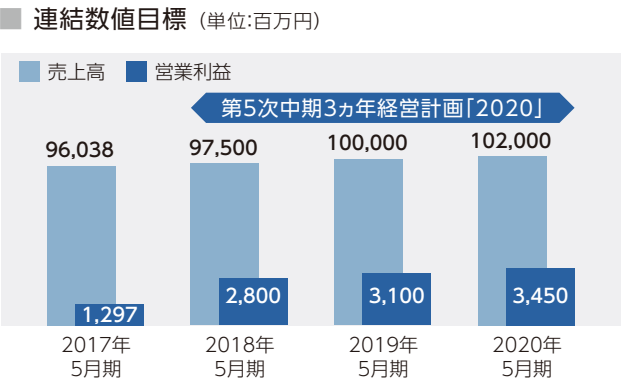
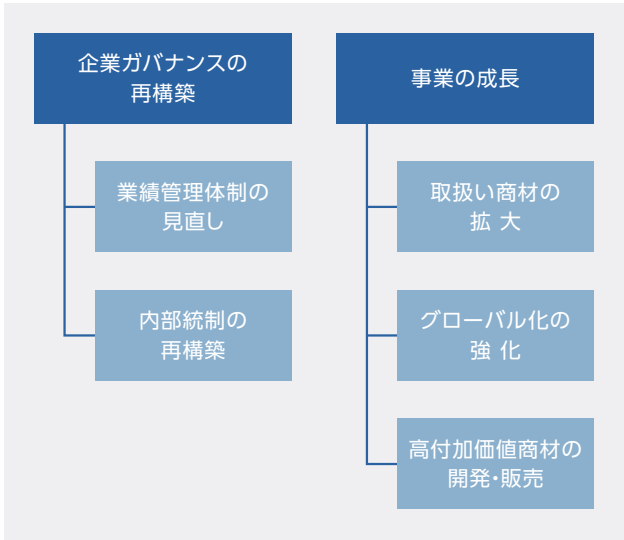
会社概要

|          |                                       |        |                                       |
|----------|---------------------------------------|--------|---------------------------------------|
| ■ 会社名    | 住江織物株式会社<br>Suminoe Textile Co., Ltd. | ■ 資本金  | 95億5千4百万円 ※2018年5月31日現在               |
| ■ 本社所在地  | 〒542-8504<br>大阪府中央区南船場三丁目11番20号       | ■ 従業員数 | 251名(連結2,850名)<br>※2018年5月31日現在       |
| ■ 創業     | 1883年(明治16年)                          | ■ 営業品目 | 【インテリア事業】<br>カーペット、カーテン、壁紙、各種床材など     |
| ■ 合資会社創立 | 1913年(大正2年12月25日)<br>(住江織物合資会社)       |        | 【自動車・車両内装事業】<br>自動車・バス・鉄道車両・航空機などの内装材 |
| ■ 株式会社設立 | 1930年(昭和5年12月26日)<br>(住江織物株式会社)       |        | 【機能資材事業】<br>ホットカーペット、消臭関連商材など         |



住江織物グループ 中期経営計画「2020」

本経営計画期間は下記を重要テーマとし、事業活動を推進してまいります。  
〈計画期間：2017年6月～2020年5月〉



| 経営計画「2020」 |          |          |          |          |         |
|------------|----------|----------|----------|----------|---------|
|            | 2017年5月期 | 2018年5月期 | 2019年5月期 | 2020年5月期 |         |
|            | 実績       | 実績       | 計画比      | 目標値      | 目標値     |
| 売上高        | 96,038   | 97,872   | 372      | 100,000  | 102,000 |
| 営業利益       | 1,297    | 2,247    | △553     | 3,100    | 3,450   |
| 経常利益       | 1,364    | 2,358    | △592     | 3,350    | 3,750   |
| ROE        | 0.1%     | 3.2%     | △1.3%    | 5.5%     | 6.0%    |



## ■ グループ概要

# 住江織物グループの製品

1891年(明治24年)の帝国議会議事堂開設の時に絨通を納入して以来、日本のインテリアのパイオニアメーカーとして、ライフスタイルの近代化に貢献してきた住江織物グループ。環境にやさしく、デザイン性と機能性を兼ね備えたモノづくりで、公共建築物やオフィスビル、交通機関から一般のご家庭まで、多彩なインテリア商品を幅広く提供しております。

### インテリア



カーテン



ラグマット



タイルカーペット



壁紙



襖紙



### 鉄道・バス・船舶・航空機内装材



鉄道内装材



鉄道内装材



船舶内装材



バス内装材



航空機内装材

### 自動車内装材



シート地



フロアカーペット



カーマット

### 美術工芸織物



絨帳



絨通



美術工芸品

### 機能性資材



浴室床材



柿ポリフェノールサプリメント



空気清浄機用 消臭フィルター



Tispa®シリーズ「香りでごまかさない 本当の消臭」



ホットカーペット



# 住江織物グループの拠点



## 海外の主な子会社

- ① Suminoe Textile of America Corporation<STA>  
サウスカロライナ(米国)
- ② Suminoe Textile of America Corporation C.A. Design  
カリフォルニア(米国)
- ③ Bondtex, Inc.  
サウスカロライナ(米国)
- ④ Suminoe Textile de Mexico, S.A. de C.V.<STM>  
イラプアト(メキシコ)
- ⑤ 住江互太(広州) 汽車繊維製品有限公司 広州(中国)
- ⑥ 蘇州住江小出汽車用品有限公司 蘇州(中国)
- ⑦ 住江織物商貿(上海)有限公司<STS> 上海(中国)
- ⑧ 蘇州住江織物有限公司 蘇州(中国)  
※ホットカーペット・フィルター製造
- ⑨ T.C.H. Suminoe Co., Ltd.<TCHS> アユタヤ(タイ)
- ⑩ PT. Suminoe Surya Techno<SST>  
バンドン(インドネシア)
- ⑪ PT. Sinar Suminoe Indonesia<SSI>  
バンドン(インドネシア)
- ⑫ Suminoe Teijin Techno Krishna India Pvt. Ltd.<STK>  
グルガオン(インド)
- ⑬ Suminoe Koide (Thailand) Co., Ltd. チェンマイ(タイ)

## タイ 自動車用マット製造工場の設立

Suminoe Koide (Thailand) Co., Ltd.はタイ市場での競争力を高めることを目的に自動車用マットの生産工場として設立いたしました。工場の位置するタイ北部のチェンマイ県サンカンペーン郡は手工芸が盛んな土地柄からマット事業に非常に適している場所です。またミャンマーとラオスの国境に近いことから、様々な国籍の従業員とともに仕事に励んでおります。これまで蓄積してきたマット生産のノウハウをつぎ込み、生産効率の高い工場を目指してまいります。



## 国内事業所・国内の主な子会社

- 本社(大阪市)
- 東京支店(東京都)
- 奈良事業所(奈良県生駒郡)
- 滋賀事業所(滋賀県甲賀市)
- 京都美術工芸所(京都市)
- 札幌営業所(札幌市)
- 仙台営業所(仙台市)
- 東関東営業所(埼玉県和光市)
- 西関東営業所(神奈川県伊勢原市)
- 名古屋営業所(名古屋市)
- 広島営業所(広島市)
- 福岡営業所(福岡市)
- (株)スミノエ(大阪市)  
カーペット、カーテンを中心としたインテリア製品の企画・販売
- ルノン(株)(東京都)  
壁紙を中心としたインテリア製品の企画・販売
- 住江物流(株)(奈良県生駒郡)  
製品の保管・荷役・加工・配送手配
- (株)スミノエワークス(東京都)  
インテリア製品の施工
- 関西ラボラトリー(株)  
試験・検査業務  
奈良ラボ(奈良県生駒郡)・大阪ラボ(大阪府松原市)
- スミノエ テイジン テクノ(株)(大阪市)  
シート表皮材を中心とした自動車内装材の製造・販売
- 丸中装束(株)(大阪市)  
車両内装材の卸業
- 住江テクノ(株)  
カーペットの製造・加工、長繊維紡糸(リサイクル含む)  
および不織布の製造・販売  
奈良工場(奈良県生駒郡)・滋賀工場(滋賀県甲賀市)
- 丹後テクスタイル(株)(京都府京丹後市)  
絨帳、絨通、ラグマットの製造・販売
- 帝人テクロス(株)(愛知県稲沢市)  
自動車用シート表皮材、椅子張地、衣料用生地等の製造・販売
- 尾張整染(株)  
自動車用シート表皮材、インテリア用生地等の染色整理加工  
本社(愛知県一宮市)・石川工場(石川県能美市)
- (株)ソーイング兵庫(兵庫県丹波市)  
ファブリック製品の縫製加工

■ …住江織物(株)の事業所 ■ …子会社と各営業拠点



# 環境への配慮と品質向上で豊かな暮らしに貢献

135年にわたって続いてきた当社グループの事業活動の中でインテリアにとどまらず、時代の変化やお客様からのニーズにお応えしながら新しい製品を生み出し、豊かな暮らしに貢献してまいりました。  
今回は、当社グループが誇る技術と品質をご紹介します。



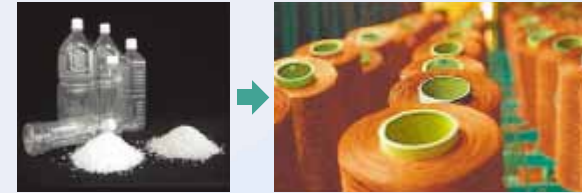
## ペットボトルから作った環境にやさしい糸

環境負荷低減

### ポリエステル長繊維 スミترون®

「スミترون®」は、住江テクノ(株)滋賀工場で製造しているポリエステル長繊維です。

ポリエステルチップを熔融・紡糸しており、防汚性・耐光性に優れております。



スミترون®を使用したラグカーペット

#### 【特長】

##### ● 環境にやさしい

使用済ペットボトルから再生したチップを50%使用しております。

##### ● 汚れに強い

ポリエステル糸のため、汚れがつきにくくなっております。

##### ● 光・熱に強い

原料着色糸のため耐光・耐熱性に優れております。

##### ● かさ高性がある

三次元撚縮加工で繊維にランダムな縮れを付与するため、ボリュームが感じられます。

#### 「PETボトルリサイクル推奨マーク」を取得しています！

PETボトルリサイクル推奨マークとは、日本国内で消費され回収された使用済み「指定PETボトル」を再生したフレーク、ペレットまたはパウダーを、商品の原料として一部ないし全てを利用しているなどの一定基準を満たしているものに認定されます。



PET再利用品

## 生まれ変わる、カーペット



環境負荷低減

### ECOS®(エコス)水平循環型リサイクルタイルカーペット

#### ダブルリサイクルという新常識へ

2011年5月から発売を開始した「ECOS®」は、さらなる進化を遂げ、より環境に配慮した製品です。一部製品では、表面材・バック材ともに市場から回収した再生材を使用する「ダブルリサイクル」を実現いたしました。

再生材比率 **84%**

世界トップクラスの再生材比率を達成

市場に流通しているリサイクルタイルカーペットは、再生材比率が25%~40%強のものが多く、ECOS®は最大84%\*を達成いたしました。

\*ECOS® iD-8100の場合

CO<sub>2</sub>削減率 **43%**

従来品と比較してCO<sub>2</sub>排出量を大幅削減

使用済みペットボトルから製造されたスミترون®を用いたSG-500は、LCA評価において最大43%のCO<sub>2</sub>削減率\*を達成いたしました。

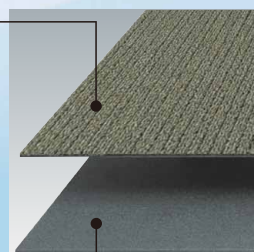
\*当社従来品比



#### 【表面材】

\*ECOS® iD-8100の場合

使用しているECONYL®は、アクアフィル社が量産化に成功した100%リサイクルナイロン繊維です。古くなった漁網などを回収しリサイクルしております。



#### 【バック材】

独自のリサイクル技術で、使用済みタイルカーペットからバック材の再資源化に成功。バージン品と変わらない価格も実現いたしました。

## 暮らしにいつも清潔な空気を

環境負荷低減

### 空気を洗う壁紙®

#### 【空気を洗う壁紙®とは？】

壁紙を中心としたインテリア製品の企画・販売を行うルノン(株)が販売している、臭いの原因物質を消臭(吸着・分解)する機能性壁紙です。

バリエーション豊かな柄と色は、新築やリフォーム、一般住宅から商業空間まで様々な空間にご利用いただけます。また、メンテナンス性の良い撥水タイプや通気性など機能性も充実しています。

ラインナップ **495点**



#### 【特長】

##### ● 独自の消臭機能「トリプルフレッシュ®」を使用

吸着→分解→再生のサイクル消臭が可能です。加工薬剤は「SEK基準」各種毒性テスト基準をクリアしており、安全性が確認されています。

##### ● 「空気を洗う壁紙®」独自の消臭メカニズム

光も電気も使わない「サイクル消臭」機能です。





# 空と宇宙に、認められた品質

航空宇宙分野の品質マネジメントシステム、JIS Q 9100認証取得

住江織物(株)は航空機カーペット事業において、JIS Q 9100認証を取得いたしました。

適用規格: JIS Q 9100:2016  
登録組織: 住江織物(株)機能資材事業部 大阪第1営業部および品質保証部  
所在地: 住江織物(株)本社 大阪市中央区南船場3-11-20  
登録範囲: 航空機用カーペット設計・開発、委託製造および販売

## 【JIS Q 9100とは?】

ISO9001をベースに航空宇宙産業特有の要求事項が追加された、品質マネジメントシステムの国際規格です。

JIS Q 9100は米国AS9100、欧州EN9100と技術的に同等で、相互認証されています。航空宇宙産業は品質要求が高まりつつあり、部品サプライヤーには同認証取得が求められるようになっております。



## 【認証取得によるメリット】

- **品質レベルの向上**…国際標準の品質管理体系に則った業務プロセスの構築と持続的な改善活動によって、品質レベルの向上を目指します。
- **顧客からの信頼性獲得**…高品質かつ安定的なモノづくりによって、顧客満足の向上を図ります。また、顧客のサプライヤー監査の軽減に寄与します。
- **国内から海外へ**…認証登録情報は国際的なデータベースで利用され、海外顧客層へのアピールとなり受注拡大の機会につながります。

## 【今後の取り組み】

JIS Q 9100認証取得を契機に、より一層の品質向上に努め、より信頼できる製品を提供することで、海外を含めたお客様へのご要望に応えてまいります。



# 足元に、優しさの目印を

鉄道車両向け 床面表示フィルム PHフィルム

PHフィルムとは、鉄道車両内の優先スペースに車いすやベビーカーのマークなどを表示する床面表示フィルムで、乗客案内と注意喚起に役立ちます。

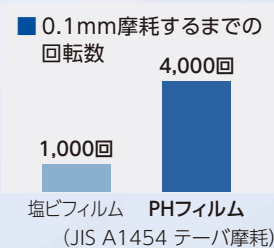


## PHフィルムの特長

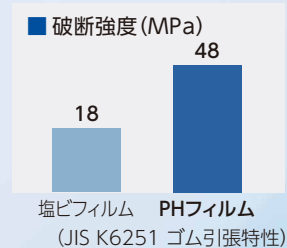
### ● 優れた耐久性

「破れ」「めくれ」「摩耗」「汚れ」への耐久性に特化しており、引っ掛かりや転倒しにくい安全性、および時間がたっても汚れにくい防汚性にも優れております。

塩ビフィルムに比べて  
約4倍の耐摩耗性



塩ビフィルムに比べて  
2倍以上破れにくい



## 当社床面表示フィルム製品の基本性能

### ● 簡易施工

フィルムの裏面には粘着剤が付いており、簡単かつ短時間で床面へ施工することができます。

### ● 燃えにくい

鉄道車両材料燃焼試験において「難燃性」を取得しております。

### ● 滑りにくい

JIS規格CSR値で高い安全性が証明されております。

### ● 燃焼時にも安全

燃焼時の発煙が少なく、有毒ガスの発生も非常に少ないことが特長です。

## 【より付加価値の高い製品に】

今後は、意匠性の向上および外国語表記も含め、社会のニーズに沿ったより付加価値の高い製品の展開を目指してまいります。



# 車の内装ランクアップ!

自動車内装材 合成皮革の開発

車のグローバル化により、内装は本革との組み合わせが可能な合成皮革の需要が増えてきております。当社グループでは、ファブリックで培った技術と合成皮革との融合により、様々な特徴の商材を展開することにより、新しいニーズに対応してまいりました。

## 【特長】

### ● デザイン性

スムーズで柔らかい触感と、エンボスやプリントなどの様々な後加工と組み合わせることにより、新しいデザインニーズを開拓することができました。

### ● 機能性

高い物性と品質を要求される自動車規格をクリアしたうえで、透湿防水性能のある合皮や、汚れ防止機能などの特殊性能を持たせることができます。

### ● 合理性・環境性

本革と比較して低コストであることに加え、従来品よりも軽量化したタイプや溶剤使用量を減らしたタイプにより、環境対応も充実させております。



## 研究開発ラボの新設

2017年住江織物(株)奈良事業所内に、PU合皮・PVC(塩ビ)の独自研究開発を行えるラボ施設を新設いたしました。

### 【目的】

- ・より短い納期対応で完成度の高い開発
- ・意匠性・風合いに加え、機能的要素の向上
- ・技術的ノウハウの蓄積



開発ラボ

# 生体情報を、より快適に測るために

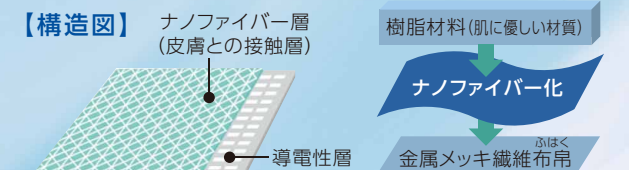
生体情報計測センサー用布型電極を開発中

電気を通す糸や肌に優しい材料の探索と、当社の布を作り加工する技術を合わせ、心拍、筋電などの生体情報が測定できる布型電極の開発を行ってまいります。

## 肌に優しい布型電極

生体情報は体が発する微弱な電位変化から得られます。一般には導電性ゲルを使用し、短時間、小面積の測定は可能ですが、長時間測定には不向きです。

今回電気を通すメッキ繊維の布を作成し、さらに肌に接する面に肌への刺激性の少ない材料をナノサイズで加工する技術を開発いたしました。これにより肌への密着性が向上。メッキ繊維接触による肌へのアレルギー反応を緩和し、通気性を有した布型電極となります。



従来の電極と比べ、計測精度は保ったまま通気性を大幅にアップさせました。

|     | 一般電極 | 布型電極 (開発品)   | 導電布帛      |
|-----|------|--------------|-----------|
| 材 料 | 導電ゲル | 極細繊維+金属メッキ繊維 | 金属メッキ繊維のみ |
| 通気性 | ×    | ○            | ○         |
| 密着性 | ◎    | ○            | ×         |

## 新分野に挑戦

当社のもつ材料探索技術、布作製・加工技術を組合せて布型電極を開発しております。

従来のインテリア繊維製品技術を用いて、近年注目されているスマートテキスタイル／生体情報計測繊維製品の開発を進め、新分野に挑戦いたします。

## 【展開イメージ】





# 次世代を担う人材育成の第一歩はここから！

住江織物グループの歴史を築いてきたのは、いつの時代も熱い想いを持った「人」でした。社会や人々の暮らしに貢献したいという想いを抱き、実現していくまでにはどのような過程があるのか。

当社グループでは各社で新入社員研修を行っており、今回は住江織物(株)の新入社員研修に焦点を当て、どのようなことを学び、社会人・社員としての第一歩を踏み出すかをご紹介します。

## 人材育成に関する考え方

チャレンジ精神を持ち常に新しいことに挑戦し続けてきたことが当社グループの歴史であり、この精神は今後も変わりません。そのため、社員には与えられた仕事を無難にこなすだけでなく、好奇心を持って新しい分野や疑問に思ったことを固定観念にとらわれず、粘り強くチャレンジすることを求めています。失敗を恐れその場に留まれば成長はありません。仮に失敗したとしてもその経験が新たな成功に繋がると信じています。

若い社員が、グローバルな事業展開やオンリーワン商品の開発といった仕事の中でチャレンジすることにより活躍の場が広がり、その挑戦の積み重ねで成長するものと考えています。

今後も仕事を通して社員の育成を図ることができる環境をつくってまいります。

## 新入社員研修の目的

- 住江織物グループ全体の事業内容を知る。
- 社会人としての基礎であるマナー・考え方を身に付ける。
- グループでの仕事の進め方を学び、プレゼンテーションスキルの基礎を身に付ける。

### 2018年度入社の新入社員に聞いた「住江織物のイメージとは？」

- ・ 伝統を大切にしながら新しいことも積極的に取り入れている
- ・ 時代のニーズに合わせた商品の開発のために常に新しいことに取り組んでいる
- ・ 生活の中の身近な製品の物づくりや環境に配慮した物づくりを行っている
- ・ 新しいことに挑戦し続ける革新と伝統を併せ持っている
- ・ 持っている技術を活かして他分野に挑戦している

## 【事業を学び会社を知る】

多岐にわたる事業内容を学びます。各部署の社員が講師となって業務内容や業界の現状、取扱い商材、今後の展望について説明します。

管理系の部署から開発、営業、デザインと幅広い業務について学ぶことができます。



## 【グローバルな人材を育成】

当社グループの海外拠点は世界6か国に広がっています。今後、日本国内に留まらず世界で活躍する社員を育成するため、新入社員研修から英語教育を取り入れています。

ネイティブの講師による英会話があり、アウトプットを意識した研修が行われます。



## 【メーカーとしての原点を学ぶ(工場見学)】

事業の原点であるモノづくりの拠点を見学します。2018年度は住江テクノ(株)奈良工場、滋賀工場、尾張整染(株)石川工場、その他協力工場の6拠点を訪れ、生産過程を見学します。

お客様のもとに製品が届くまでにどのような過程で物がつくれるのかを学びます。



## 【研究発表のための準備】

新入社員は毎年「新規事業の提案」というテーマで集合研修最終日に発表します。

研修で学んだ会社の強みや技術を活かしてグループごとに製品を考え、役員を含めた先輩社員の前で発表します。

そのための準備を1ヶ月かけて講義や工場見学と並行して行います。

### 〈準備中の新入社員の声〉

- ・ 研究を通じてグループ内のチームワークが強くなった
- ・ 「夢がある+数年後実現可能なもの」のバランスを取るのに苦労している

集合研修  
最終日！

## 【グループ研究発表】

発表当日は役員および社員が50名以上集まります。各グループからは既存の技術を応用し、機能性に富んだ商品の発表が行われ、新入社員ならではのフレッシュな発想と独自性が好評です。



## グループ研究の目的

### 1. 求められるもの+αを考える

会社についての知識が少ないなかで「新規事業の提案」という一つのテーマに向き合い、一歩先の会社を考えるという難しい課題に挑戦する理由は、創業の原点である「モノづくり」にあります。

これまで世の中の需要を見極めて形にしてきたのと同様に今後も社会やお客さまに貢献するために必要なこと、挑戦すべきことを考え続けなければなりません。そうした常に一歩先を見据え、求められるもの+αを作っていく力を培うため、早期から自ら考え、創造する研修を行っています。

### 2. チームワークで乗り越える

どのような仕事も周囲の人と協力し、成果を出していかなければなりません。それに加え、働く環境が多様になった今、互いの個性・価値観を尊重しながら仕事を進めていくことは必須です。

新入社員研修においても、様々な環境や状況に順応しながら、チームで目標に向かって努力することを目的の一つとしています。

OJT研修  
配属

## 新入社員の挑戦はここから

会社にとって、仕事を通じて会社や社会に貢献する人材を育成することは重要な使命です。社員がより能力や個性を発揮しいきいきと働けるよう、経験や知識を高められる仕組みや環境を提供してまいります。

新入社員の一人ひとりには集合研修で学んだことを活かすとともに「自分の強みを活かして会社に貢献できることは何か」を模索しながら力を発揮して欲しいと思っています。

研究発表

VOICE!

## 〈新入社員研修を終えて〉

新入社員研修を通して、様々な部署の方から、当社が扱う製品やその部署の仕事について学ぶことができ、とても貴重な1か月だったと感じています。

グループ研究では、提案する新商品の機能や特徴だけではなく、販売ルートやコストなど、多角的な視点で考えなければならぬと実感しました。また、グループのメンバーとお互いが納得できるような議論することに難しさも感じました。

自分と違う立場の人からは物事がどう見えているか、多角的に考えることを忘れずに、研修で学んだことをこれからの仕事に活かしていきたいと考えています。

情報管理部 臼井 美紀



## 〈研修担当者の声〉

新入社員研修では、社会人としての心構えや考え方を習得し、スムーズにスタートをきることをねらいとしています。集合研修の約1ヶ月間で会社への理解を深め、マナーを身に付けることで、配属前の基礎固めを行っています。また、グループ研究ではグループでの仕事の進め方を学ぶだけでなく、同期同士の絆を深めることで、研修後も切磋琢磨し合う仲間となつて欲しいと考えます。

配属後は5ヶ月間のOJT研修があります。新入社員には、配属先でも積極的に自ら考え行動し、失敗を恐れずチャレンジを重ねながら成長して欲しいことを期待しています。



START!

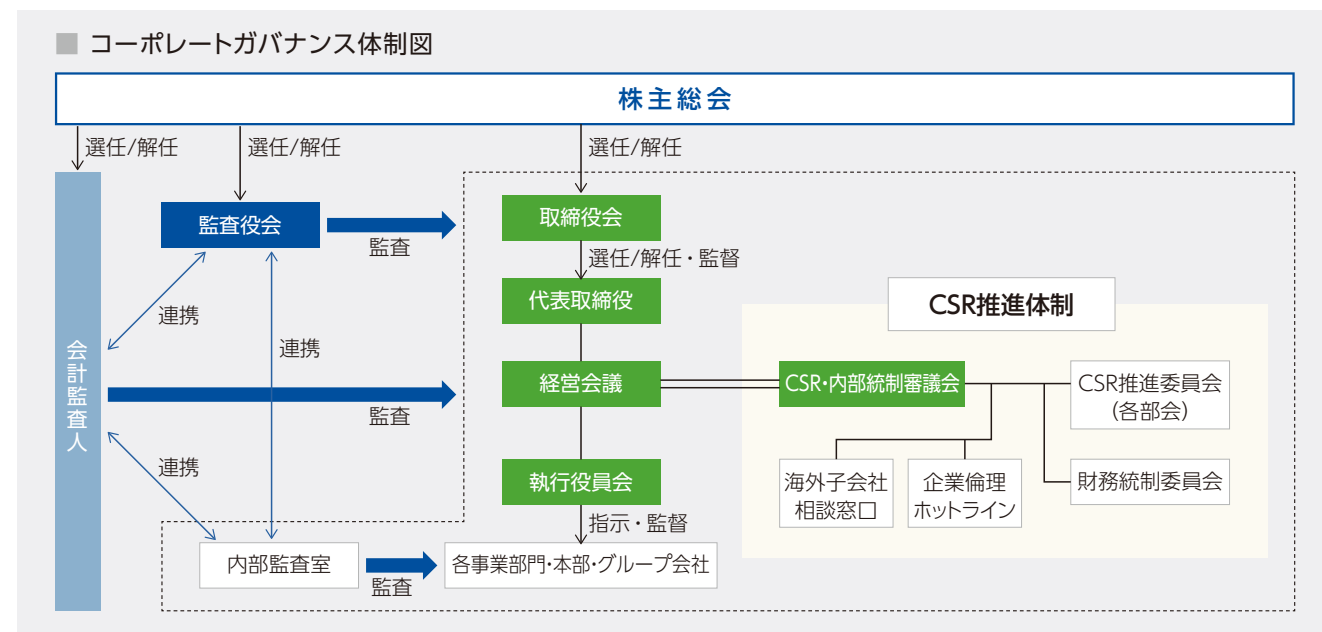


# コーポレートガバナンス/CSR推進体制

## コーポレートガバナンス※1

当社は次のようなガバナンス体制をとっております。経営の健全性、効率性の確保のため、社外取締役の選任、監査役制度の機能強化を図るなか、経営の迅速かつ機動的な意思決定と業務執行の監督機能として取締役会と業務執行責任を負う執行役員制度を導入しております。このような業務執行体制および監査役、社外取締役による経営監視体制によってガバナンスの有効性を確保しております。

※1コーポレートガバナンス：一般的に「企業統治」と訳され、経営の透明性や企業価値の向上を目的に企業経営を管理・監督する仕組み。



### 取締役会

8名の取締役（うち、社外取締役3名）で構成し、業務執行の監督および重要事項の決定を行っております。

### 監査役会

監査役3名（うち、社外監査役2名）で構成し、監査方針・計画の決定、監査報告についての協議を行っております。

### 経営会議／CSR・内部統制審議会

経営会議は、原則毎週開催し、経営上重要事項の報告・審議を行い、特に重要事項については、取締役会に上申いたします。CSRに関する重要事項および財務報告に係る内部統制の評価については、CSR・内部統制審議会として審議いたします。常勤監査役1名がオブザーバーとして参加しております。

### 執行役員会

社長以下、執行役員で構成され、毎月1回開催されます。取締役会もしくは経営会議での決定事項の通達および各執行範囲における現状の報告が行われます。



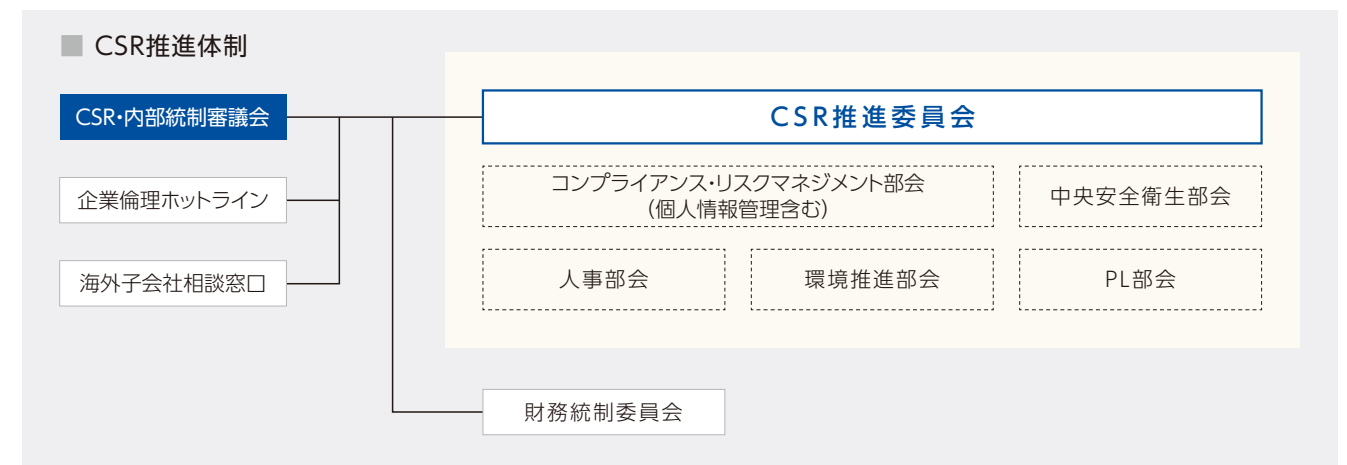
〈後列左より〉  
山下 恭史 社外監査役  
橋本 雅至 社外監査役  
小瀧 邦彦 常勤監査役  
沢井 克之 取締役  
永田 鉄平 取締役  
野村 公平 社外取締役

〈前列左より〉  
横田 隆司 社外取締役  
飯田 均 代表取締役専務  
吉川 一三 代表取締役会長兼社長  
谷原 義明 代表取締役専務  
清水 春生 社外取締役

## CSR推進体制

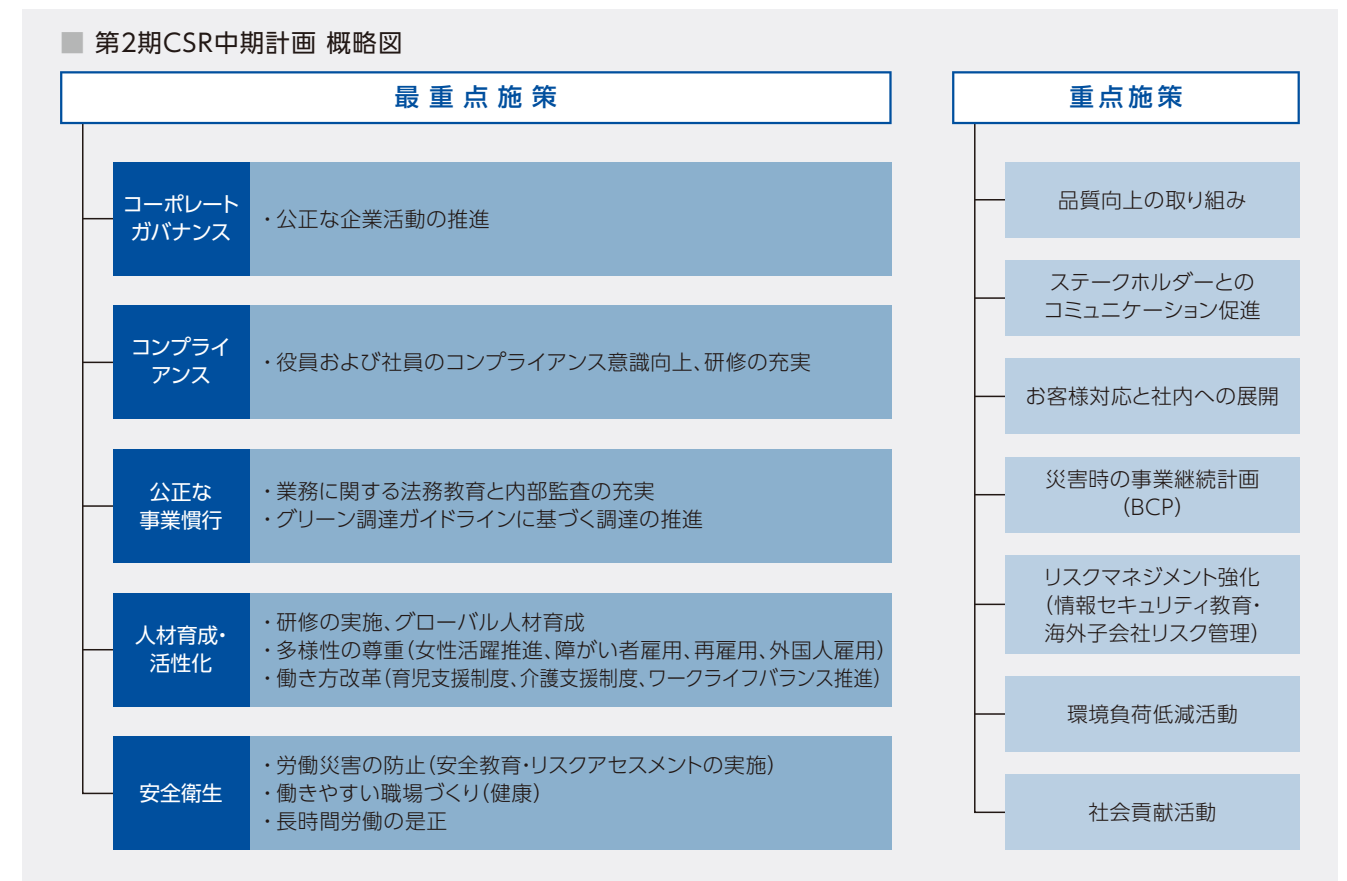
CSR推進委員会は、CSRに関する活動方針の決定や各部会の活動計画の審議、進捗確認など、中心的な役割を担う機関として住江織物(株)本社にて年に4回開催しております。また、再発防止中長期プランの計画審議および進捗確認を行っており、今後もガバナンスおよびコンプライアンス強化を推進してまいります。

各部会においては、CSR課題の把握および具体的な施策の実施に向けて、活発な議論を重ねております。



## CSR中期計画

企業ガバナンスの再構築および事業の成長を基軸として策定した中期経営計画(P.6)とともに2020年に向かって成長するため、CSR重要施策を見直し、第2期CSR中期計画を策定いたしました。下記の項目を中心に取り組みを進めてまいります。（計画期間：2018年6月～2020年5月）





ISO26000を参考ガイドラインとし、7つの取り組み分野に分け、中期的な取り組みを掲げております。

2017年度の実績は次の通りです。

A：達成 B：ほぼ達成 C：未達成

| 取り組み分野         | 関連ページ         | 重点項目         | 主なテーマ                                | 2017年度の取り組み目標                                                                                                            | 2017年度実績                                                                                                                                | 自己評価 |
|----------------|---------------|--------------|--------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|
| ガバナンス・コンプライアンス | P.17～18、21～22 | コーポレート・ガバナンス | 公正な企業活動の推進のために、取締役会・監査役会および各種委員会での検討 | ・取締役会・監査役会の開催とCSR推進委員会での活動計画の審議                                                                                          | ・取締役会を10回、監査役会を9回開催<br>・CSR推進委員会を5回開催し、活動計画を審議                                                                                          | A    |
|                |               |              | 評価範囲内対象会社について、財務報告に係る内部統制の有効性を評価     | ・財務統制委員会を中心とした活動実施【目標：開示すべき重要な不備件数 0件】                                                                                   | ・財務統制委員会を中心とした活動実施【実績：開示すべき重要な不備件数 0件】                                                                                                  | A    |
|                |               | コンプライアンス     | 住江織物グループ行動規範および行動基準の浸透               | 住江織物グループコンプライアンスプログラムの確立<br>・各階層別研修でのコンプライアンス研修<br>・新入社員へのコンプライアンスガイダンス配布および基礎知識講習<br>・その他、イントラネットや集合形式での研修【計画比実施率：100%】 | ・各階層別研修、新入社員研修でのコンプライアンス研修実施【計画比実施率：100%】<br>・コンプライアンス研修実施（役員研修、幹部社員研修、ワークショップ）<br>・朝礼、週会時に企業行動規範を唱和                                    | A    |
|                |               |              | コンプライアンスに関するモニタリングの継続実施              | ・ローテーションによるコンプライアンス監査の実施【計画比実施率：100%】                                                                                    | ・コンプライアンス監査の実施【計画比実施率：100%】<br>海外子会社への監査を重点的に実施                                                                                         | A    |
|                |               |              | ホットラインの周知                            | ・新規入社者へのホットライン周知<br>・階層別研修、ハラスメント防止研修にてホットライン周知【目標：100%】                                                                 | ・新規入社者への周知の実施<br>・階層別研修、ハラスメント防止研修、ワークショップなどの機会に周知【実績：100%】                                                                             | B    |
| 事業慣行           | P.33          | 公正な取引        | 契約状況の見える化・取引に関する法務教育およびモニタリング        | ・下請法に関するイントラネットまたは集合形式での研修実施<br>・内部監査実施【計画比実施率：100%】                                                                     | ・下請法に関する集合形式での研修実施<br>・内部監査実施【計画比実施率：100%】                                                                                              | A    |
|                | —             | グリーン調達       | グリーン調達ガイドラインの推進                      | ・サプライヤーへのガイドラインの配布と帳票の回収【目標：年1回】                                                                                         | ・サプライヤーへのガイドラインの配布と帳票の回収を実施【実績：年1回】                                                                                                     | A    |
| 人権・採用・人事処遇・育成  | P.29～32       | 多様性の尊重       | 多様性を尊重した、働きやすい職場づくり                  | ・子会社より障がい者雇用率達成に向けて、対策案を提出させる一期末の振り返り〈(株)スミノエ、ルノン(株)、住江物流(株)、住江テクノ(株)、丹後テクスタイル(株)、帝人テクロス(株)、尾張整染(株)〉                     | ・住江織物(株)単体での障がい者雇用率達成<br>・子会社での対策は未実施                                                                                                   | B    |
|                |               |              |                                      | ・シニア社員への評価フィードバック時に上司面談を実施<br>・CSRレポートでの活躍PR                                                                             | ・シニア社員への評価フィードバック時に上司面談を実施<br>・CSRレポートでの活躍PR                                                                                            | A    |
|                |               |              | 自らの能力向上の支援としての集合教育の実施                | ・階層別・テーマ別研修の実施と内容の充実                                                                                                     | 階層別研修：内容の検討を例年通り実施<br>テーマ別研修：「タイムマネジメント」「コミュニケーション力向上」のテーマを選定し、実施                                                                       | A    |
|                |               | 人材育成         | グローバル人材の育成                           | ・グローバル人材育成システムの基礎づくり                                                                                                     | ・新入社員および希望者のTOEIC受験<br>・語学研修(通学式レッスン、通信教育、オンラインレッスン、赴任前語学研修)の実施<br>・グローバル人材育成システムの基礎づくりは未実施                                             | B    |
|                |               |              | 女性活躍                                 | ・女性活躍サポートフォーラムへの派遣<br>・管理職対象女性部下指導研修などの検討<br>・CSRレポートでの活躍PR<br>・各階層別研修での活躍PR                                             | ・女性活躍サポートフォーラムへの派遣<br>・CSRレポートでの活躍PR<br>・各階層別研修での活躍PR                                                                                   | A    |
|                |               |              | 人材活性化                                | 人材活性化への取り組み実施<br>・未来塾の開催<br>・その他、今後の取り組みを検討                                                                              | ・未来塾を東京・名古屋にて実施<br>・中途入社者へのヒアリング実施<br>・人事部会にて活性化への取り組み検討                                                                                | B    |
|                |               | 労働安全衛生       | 社員の安全を守るための活動計画を推進                   | ・安全衛生委員会設置事業所での取り組みの共有<br>・小規模事業所の安全衛生推進者・衛生推進者の設置<br>・部会長・事務局による安全巡視の定期実施【目標：6事業場以上】                                    | ・中央安全衛生部会による各事業所で実施の「提案事例」「注意喚起事例」の共有を行い、労働災害の未然防止活動を推進<br>・中央安全衛生部会メンバーが工場巡視を行い、取り組みについて意見交換<br>・安全教育の定期実施<br>【目標：休業件数での労災度数率1⇒実績：2.0】 | C    |
| 安全・防災・健康       | P.30          |              |                                      | ・防災訓練の実施【計画比実施率：100%】                                                                                                    | ・防災訓練の実施【計画比実施率：100%】                                                                                                                   | A    |

| 取り組み分野     | 関連ページ   | 重点項目            | 主なテーマ              | 2017年度の取り組み目標                                                                                      | 2017年度実績                                                                                                                                                                                     | 自己評価 |
|------------|---------|-----------------|--------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|
| 安全・防災・健康   | P.30    | 労働安全衛生          | 社員の健康を保持するためのケアを実施 | ・ハラスメント防止研修の実施(計画に沿った)<br>・健康相談室サービスの広報促進<br>・ストレスチェックの実施                                          | ・ハラスメント防止研修の実施<br>・健康相談室サービスの広報<br>・ストレスチェックの実施                                                                                                                                              | A    |
|            |         |                 |                    | ・営業所を含め、全ての事業所に客観的な労働時間把握ツールを導入<br>・労働時間を定期的にチェックし、長時間労働者への指導がされる仕組みが定着している<br>・ワークライフバランスの取り組みを検討 | ・主要な事業所および営業所へのタイムレコーダー導入<br>・労働時間の定期的なチェック、タイムレコーダーとの乖離の確認と指導                                                                                                                               | A    |
| 環境         | P.35～40 | 事業活動における環境負荷の低減 | 地球温暖化防止            | ・P.38に掲載                                                                                           |                                                                                                                                                                                              |      |
| リスクマネジメント  | P.33～34 | BCP             | 災害時の事業継続計画推進       | ・BCP行動計画の定期見直し<br>・全事業所にて、安否確認から得意先への情報発信訓練実施                                                      | ・大阪北部地震発生時には定めている訓練通りの安否確認方法が機能                                                                                                                                                              | B    |
|            |         |                 |                    | ・知的財産権に関する啓発活動の実施(社内イントラネット・研修)【計画比実施率：100%】                                                       | ・知的財産権に関する啓発活動の実施(社内イントラネット・研修)【計画比実施率：100%】                                                                                                                                                 | A    |
|            |         | 知的財産権           | 知的財産権への理解促進        | ・情報セキュリティ教育(情報端末セキュリティ、個人情報保護)                                                                     | ・情報セキュリティ教育実施<br>・情報セキュリティポリシーの策定                                                                                                                                                            | A    |
|            |         |                 |                    | ・インサイダー取引に関する啓発活動を実施                                                                               | ・新任役員への啓発活動実施<br>・社内イントラネットでの啓発活動実施                                                                                                                                                          | A    |
|            |         | 情報セキュリティ        | インサイダー取引防止啓発活動     | ・品質保証合同会議の定期開催(年4回)と、品質向上(不良率低減、品質損失金額低減)活動と化学物質規制に関する状況共有の取り組み実施                                  | ・品質保証合同会議の開催(1・4・7・10月)<br>・品質向上(不良率低減、品質損失金額低減)活動と化学物質規制に関する状況共有の取り組み実施                                                                                                                     | A    |
|            |         |                 |                    | ・品質保証合同会議の定期開催(年4回)と、品質向上(不良率低減、品質損失金額低減)活動と化学物質規制に関する状況共有の取り組み実施                                  | ・品質保証合同会議の開催(1・4・7・10月)<br>・品質向上(不良率低減、品質損失金額低減)活動と化学物質規制に関する状況共有の取り組み実施                                                                                                                     | A    |
| 消費者・社会貢献活動 | —       | 顧客満足の向上         | お客様対応と社内への展開       | ・お客様センターへの問い合わせ内容をCSR推進委員会へ報告<br>・CSRレポートへお客様の声を活かした商品を掲載                                          | ・お客様センターへの問い合わせ：2,292件<br>その内、商品・規格・価格・機能性に関する問い合わせは46%(1,032件)、ご指摘が4%(90件)<br>ご指摘については、内容を分類した後、原因を分析し、次回の商品開発に活用                                                                           | B    |
|            |         |                 |                    | ・決算短信四半期ごとに東証への適時開示および自社HPに掲載を遅滞なく実施                                                               | ・決算短信四半期ごとに東証への適時開示および自社HPに掲載を遅滞なく実施                                                                                                                                                         | A    |
|            |         | 情報開示            | 適正なIR情報の開示         | ・従来の外部コミュニケーションの実施<br>・企業イメージ向上のための取り組み案検討開始                                                       | ・JAPANTEX2017、第84回東京インターナショナル・ギフトショーなど、展示会へ出展<br>・機関投資家との面談回数は前期に比べて増加、積極的に機関投資家とのコミュニケーションを図り、当社事業、業績への理解を促進<br>・ホームページでの法定開示資料に加え、IRミーティングでの配布資料を掲載するなど、積極的に情報を開示<br>・企業ブランドイメージ向上の取り組み検討中 | A    |
|            |         |                 |                    | ・地域への貢献、環境関連の社会貢献活動を実施                                                                             | ・地域への貢献、環境関連の活動は継続実施<br>・社会と積極的に関わりを持ち、地域保全および活性化に参画                                                                                                                                         | B    |



# 再発防止の取り組み

米国子会社Suminoe Textile of Americaの会計処理問題により企業ガバナンスの強化およびコンプライアンスの徹底が重要な課題であると認識し、新たに研修や啓発活動の機会を設け取り組みを推進してまいりました。

## コンプライアンス

### コンプライアンスガイダンス

2017年4月に発行した「コンプライアンスガイダンス」をツールとして、入社時や各階層別研修時にコンプライアンスについての講義を継続して行っております。海外グループ会社の社員には、英語版・中国語版のガイダンスを配布いたしました。その他にも、コンプライアンス意識の醸成を目的として企業行動規範の唱和を行っております。



コンプライアンスガイダンス  
英語版・中国語版

### 内部通報窓口の周知

内部通報窓口は従来から設置している企業倫理ホットライン、社外弁護士窓口、社外健康相談窓口に加え、気軽に安心して相談できるハラスメント専門の外部窓口も設けております。各社内研修やワークショップなどの機会を利用し、窓口の周知および利用を促しております。

### ■ 各相談窓口の利用実績(2017年度)

|                  |    |
|------------------|----|
| 企業倫理ホットライン       | 3件 |
| 社外弁護士            | 0件 |
| 健康相談窓口(ハラスメント相談) | 6件 |
| ハラスメント相談窓口       | 1件 |

### コンプライアンスワークショップ

2018年8月に(株)スミノエ本社で6回、10月に東京支店でグループ会社を含め10回開催し、計315名が受講いたしました。

ワークショップ前半は、「なぜコンプライアンスは重要なのか」「コンプライアンス違反が会社に与える影響」などの社員として最低限知っておきたい基礎的な内容の講義がありました。後半は「あなたの業務に潜むリスクとその対策は?」をテーマにグループで意見交換を行いました。また、ワークショップでの理解を深めるため、後日職場でミーティングを実施しレポートを提出してもらうことで、意識の共有を図りました。

参加者が自身の業務におけるリスクを把握することでコンプライアンスをより身近に感じてもらう機会となりました。



グループでの意見交換の様子

### 【レポートで寄せられた意見や感想】

#### ■ ミーティングテーマ

「コンプライアンス遵守のために私がすること、周囲に働きかけること」

- ・コンプライアンス違反を見かけた時は、見て見ない振りをしないで、上司または同僚などに相談をする
- ・相談しやすい風通しの良い社風、部署の雰囲気作りをする
- ・今回の職場ミーティングのように意見や情報を収集する機会を設ける
- ・ジョブローテーションをすることで、不正が起きる機会を少なくする
- ・マニュアル化することで、業務の負荷を軽減させる
- ・法律に関する専門家による講習会などリーガルチェックができるようにし、知らないうちに法令に抵触しているということがないようにする



## 幹部社員研修

会社の中で管理・監督の役割を担う幹部社員として必須のコンプライアンス知識を学ぶため、2018年5月に国内全グループ会社の管理職者90名が集まり研修を行いました。

社内講師より現在の当社グループのコンプライアンスに関する取り組みの状況や今後の課題について講義が行われた後、幹部社員が自身の所属する部署のコンプライアンスの意識や働きやすい職場づくりについての考えを発表し、経営層との意見交換が行われました。



## 歩き回る経営

住江織物(株)の取締役および執行役員は、所属する部門以外の現場を訪れ社員との双方向のコミュニケーションをはかる「歩き回る経営」を行っております。

2017年度は各役員が平均9～10事業所を訪れ、訪問後は各現場での気付きや問題点とその打開策について執行役員会を中心に討議いたしました。また、それらの情報を共有するため、2018年5月より一定の役職者が社内イントラネット上で閲覧できるよう整備いたしました。その他、経営会議を住江織物(株)本社以外の事業所で年間5回開催し、歩き回る経営の範囲拡大を図ってまいりました。

年に1回実施している働きやすさアンケート(下部)の結果からも社員が「歩き回る経営によって部門間の壁が

低くなること」に高い期待感があり、歩き回る経営の効果を実感できるよう、役員と社員一人ひとりコミュニケーションを活性化させる取り組みを行ってまいります。



TCHS(タイ)

## 働きやすさアンケート(社内意識調査)2018

CSR活動の進捗状況を測り今後の取り組みに活かすため年1回「働きやすさアンケート」を全従業員に実施しております。

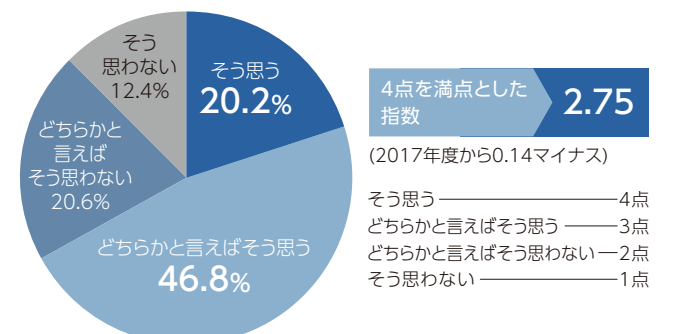
今回のアンケートでは、「わたしは今の会社で長く働きたい気持ちが強い」に対する回答が昨年と比較して0.14ポイント下がる結果となりました。この結果を受け、社員の満足度をより向上させられる取り組みが必要であると認識し、社員へのヒアリングやランチミーティングなど人材活性化を中心とした取り組みを行ってまいりました。

挙げられた社員の意見や結果は経営陣や各部門の責任者とも共有し働きやすい職場づくりにつなげております。また、社内イントラネットにも総括を公開し社員への情報共有を行っております。海外拠点においては、日本人出向者のみならず現地の社員からも回答が得られるよう、設問を翻訳し実施いたしました。

今後も会社や仕事に対する社員の意識・価値観を正しく把握しCSR活動に反映させるツールとして継続していく予定です。

### 【一般・契約社員の結果】

■ わたしは今の会社で長く働きたい気持ちが強い



### 【アンケートについて】

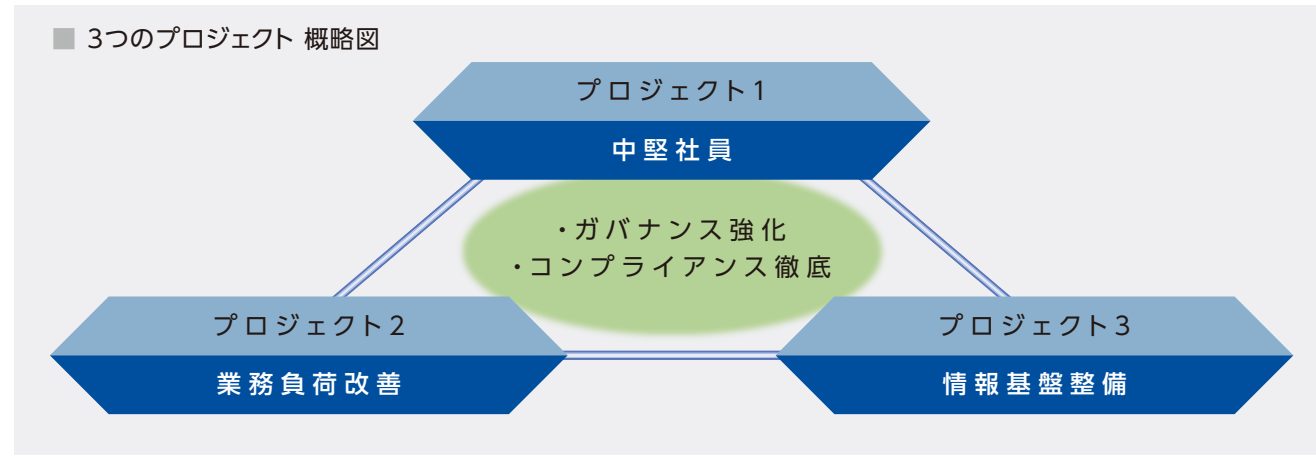
国内・海外のグループ社員全員を対象に実施。「業務」「職場」「会社風土」など8つの分野の設問があり、各設問に対して4段階で回答する選択形式と自由記述の2種類。但し、上記アンケート結果には海外の従業員からの回答は含まれておりません。



# 3つのプロジェクトの取り組み

ガバナンス強化およびコンプライアンス徹底はグループ全体で取り組むべき重要な課題と位置付けております。2016年度からはより実効性のある活動を行うためにグループ各社から集まったメンバーでグループを編成し、3つのプロジェクトを推進しております。

プロジェクト立ち上げ2年目となる2017年度は、各プロジェクトの目標達成に向けて実作業に取り掛かりました。その活動をご報告いたします。



## プロジェクト1「中堅社員」

### プロジェクト発足

2017年6月に、次代を担う人材の育成および企業風土の改革を図るため、中長期的なプランとして、トップ直轄の「SRP(Suminoe Revival Project)中堅社員チーム」を発足いたしました。

「部門を超えた人材交流の活性化と課題解決力の向上」のテーマのもと、実務を担う中堅社員が部門を超えて連携し、現場での課題について解決策の模索を行いました。

### 2017年度の取り組み

2017年度はキックオフミーティングと4回のグループ討議を開催し、まずは現状の業務実態を把握するため、各メンバーが所属する部署を対象に「業務の棚卸」を実施、各業務にかかる時間の把握だけでなく、リスクマネジ

メントの観点から、会社における「重要度」と対外的なリスク度合いである「重大性」の自社評価を行いました。

その結果、「重要度」および「重大性」がともに低い業務に時間を取られているケースが見受けられること、および特定の年齢層の社員に業務負荷が偏っていることが判明いたしました。

### 今後の予定

2018年度は「業務の棚卸」によって判明した問題について、その改善諸施策に本格的に取り組んでまいります。今後、同取り組みを通じて業務改善やリスクマネジメントといった考え方を各人の意識レベルで刷り込み、人材の育成を図ることで、全社の風土・制度改革につなげていきたいと考えています。



グループ討議の様子

## プロジェクト2「業務負荷改善」

当社グループが社会との信頼関係を維持し発展するには、全社員が高い倫理観を持って法令を遵守し、常に正しい行動をとることが大切です。しかし、日々の仕事に追われているとその意識も薄れがちになるため、コンプライアンス意識の向上には業務負荷の低減が必要と考えられます。

当プロジェクトでは、まずはどの業務にどれだけの負荷があるか、プロジェクトメンバーの所属部署で確認を行い、その後、業務負荷の改善に向けての実態調査を国内グループ全部門・部署を対象を挙げ実施いたしました。

### 今後の予定

今回行った実態調査によって国内グループ全部門・部署(13社、116部署)の負荷の状況が明らかとなりました。

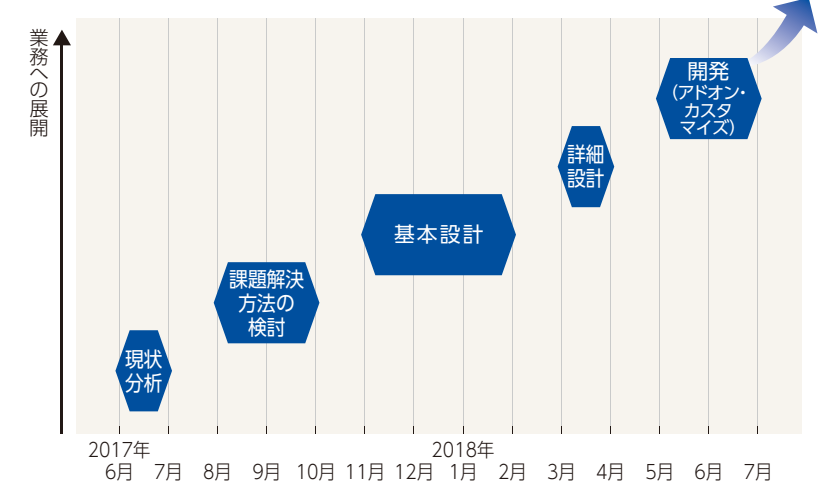
今後は明らかとなった負荷を分析し、定型業務の自動化など共通して取り組める改善策を立案し、業務負荷の低減につなげてまいります。

## プロジェクト3「情報基盤整備」

当社グループでは、スクラッチ開発した独自のシステムによる基幹業務システムを利用しておりますが、非効率かつ属人的な業務品質、システム保守費用の増加、分社化やグローバル化などによる業務プロセスの分断による部門間の連携や統合の不備、正確で迅速な情報活用の制約といった点で課題を抱えておりました。その解決策として、モデルケースとなる事業部門を選定し先行してERPパッケージの導入作業を進めております。

### 取り組み実績

2017年度は以下の通り実施いたしました。



### 〈事務局の感想〉

新基幹システムには、海外工場でも実績のあるERPパッケージの導入を検討しております。現行システムからの移行で想定外の問題に直面しており、都度協議し対応しておりますが、想像以上に大変です。いわゆる“生みの苦しみ”の経験者でないと理解が難しいかもしれませんが、この貴重な経験を共有し今後に活かしていきたいと考えております。

### 今後の予定

パッケージでは不足する機能の開発や他システムとの連携機能を開発し、モデルケースの事業セグメントを2018年10月より運用開始する予定です。また、導入に際し、現業務の過不足を見直すとともに業務の最適化を目指してまいります。他のセグメントについては、並行して順次展開する予定です。

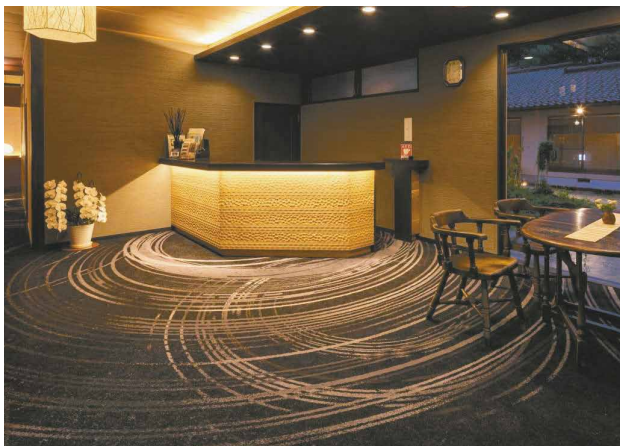


# お客様とともに (納入実績)

住江織物グループでは、お客様とともに、一般生活者の方々に快適な空間をお届けいたします。

## インテリア関連納入実績

### 金沢の奥座敷 湯涌温泉 湯の出旅館



ロビー



廊下



階段

金沢の奥座敷 湯涌温泉 湯の出旅館は、718(養老2)年に紙漙<sup>す</sup>き職人が泉で1羽の白鷺が身を浸しているのを見て近づいてみると、湯が湧き出ているのを発見。これが当温泉の発見および当温泉名の由来とされています。

建物は安土桃山時代から続く伝統的な日本の建築様式の一つである「数寄屋造り」で、茶人たちが格式張った意匠や装飾をきらい「好みに任せて作った家」を指し、軽妙洒脱な数寄屋造りが好まれたと伝えられています。

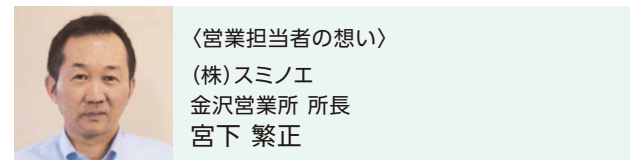
今回はそのロビーと廊下、階段を中心に弊社の別注アキスミンスターカーペット\*をご採用いただきました。ダイナミックに弧を描くモダンなデザインながらも、ゆったりとくつろげる空間を意識したデザインです。

豊かな温泉と伝統的な建物にマッチしたカーペットを末永くお使いいただければと思います。

\*アキスミンスターカーペット：カーペットの一種で、一本一本適当な長さに切断したパイルをU形に挿入した形で織ったもの。多彩で複雑な模様織りが特徴。



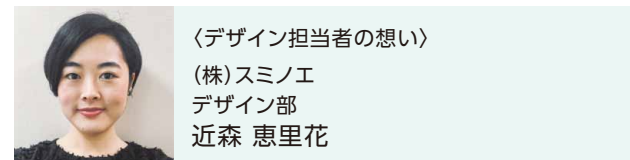
建物外観



〈営業担当者の想い〉  
(株)スミノエ  
金沢営業所 所長  
宮下 繁正

地域でも伝統的で風情のある「湯の出旅館」のカーペット張り替えに携わらせていただきました。

今回のリニューアルにあたり、同業他社メーカーが先行する中、取引先の販売店様が弊社の過去の納入実績による信頼のもとに強く推薦していただき、デザイン事務所様と打合せに入ることができました。施工日も決定し納期まで時間がない中で「風情のある建物のイメージを大切にしながら、現代の観光施設にふさわしいデザインにして欲しい」という施主様のご要望のもと何度も打合せを重ね、メーカーとしての当社を印象付けることができた物件になったのではと思います。納入後も施主様にはご満足いただいております。



〈デザイン担当者の想い〉  
(株)スミノエ  
デザイン部  
近森 恵里花

黒からグレー色の組み合わせを駆使した、大きな円弧がランダムに配置されたデザインは、旅館には少々モダンすぎるのではと思っていましたが、施主様や設計デザイナー様のご意見に沿う形で無事納めることができて安心いたしました。

非常に厳しい納期スケジュールであったこと、また初めてご一緒させていただいた設計デザイナー様であったため、デザインの細かい点(円弧のラインの太さやグラデーションのかかり具合、廊下に対しての円の配置バランスなど)を一つひとつ確認しながら、何度も打合せを重ねていきました。

普段はカーペットのデザインをされないお客様に対して、どのようにデザインの説明をするべきなのか、お客様の立場になって考え、一緒に創り上げていったという達成感のある物件となりました。

## 産業資材関連納入実績

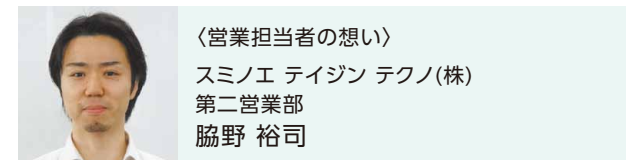
### 日産自動車(株) LEAF(リーフ)

電気自動車の分野において高い開発力を誇る日産自動車(株)は、2010年量産型EVとして登場したLEAFよりバッテリー容量を大幅に高めJ08モードの満充電航続距離を400kmへと拡大した新型LEAFを発売いたしました(日本2017年10月～、米国・欧州など海外は2018年1月～)。

日本自動車殿堂2017～2018カーテクノロジーオブザイヤーに日産LEAF搭載技術が選定され、米国では



CES2018ベストオブイノベーションアワードを受賞。また、性能だけでなく内外装デザインのスタイリッシュさと高級感も大きく向上しております。カラーデザインにおいても強いこだわりがあり、外装のカラーバリエーションは全14種類(内6種類は2トーン)という豊かさです。シート表皮材は、G/X/S各グレードに当社製品をご採用いただきました(G/XグレードにはバイオPET糸を使用した織物を納入しております)。

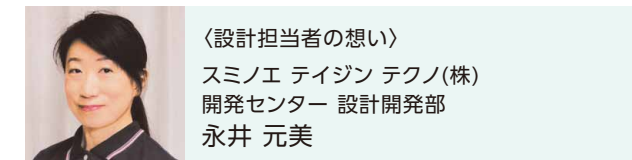


〈営業担当者の想い〉  
スミノエ テイジン テクノ(株)  
第二営業部  
脇野 裕司

日産LEAFは100%電気自動車のZERO EMISSIONを謳う車種ということもあり、インテリアも環境に配慮したものとなりました。

内装クロスは、バイオPET(バイオ糸)を使用しており、メイン材の織物については緯糸全てに、そしてサイド材のトリコットは100%バイオ糸を使用した作りとなっております。意匠は多色使いの緻密なボーダー柄織物と風合いの良い無地トリコットの組み合わせが高評価を受けました。

LEAFは日本、米国、英国とグローバル3拠点にて車両製造されることもあり、海外へのデリバリールートの構築やクロス現地化など、難題も多くありましたが、関係各位のご協力により無事立上げることが出来ました。皆様に感謝申し上げます。



〈設計担当者の想い〉  
スミノエ テイジン テクノ(株)  
開発センター 設計開発部  
永井 元美

2代目・日産LEAFシート生地設計を担当しました。次世代のエコカラー・EVカラー表現をColor Design Conceptとして2013年夏から開発スタート。全世界を駆け巡る車として相応しいコーディネーションで、多色使いグラデーションと、緯糸にはバイオ糸を使用、アクセント色・BLUEを利かせた織物になっています。

意匠決定までは、色へのこだわりや配色バランスが難しく、耐久試験や生産性・品質確認を繰り返し、各部署協力のもと約4年かけて2017年春に量産化できました。

日本はもちろん、米国、欧州に届けることができ、嬉しく思います。



## ■ 社会性

### お客様とともに（納入実績）

#### 車両関連納入実績

##### 小田急電鉄(株) 特急ロマンスカー・GSE(70000形)



小田急電鉄(株)は「箱根につづく時間(とき)を優雅に走るロマンスカー」というコンセプトのもとに開発された「ロマンスカー・GSE(70000形)」を、2018年3月17日より営業運転しております。

GSEとは、「Graceful Super Express」の略で、「優雅な」という意味を持つ「Graceful」を用いて名付けられました。

最大の魅力は、車内からのダイナミックな眺望です。ロマンスカーの象徴である展望席は、前面窓に大型の1枚

ガラスを使用しているほか、先頭車両は荷棚を無くすることでよりダイナミックな眺望と開放的な空間を創出しています。さらに、車体側面には高さ1mの連続窓が使用されており、どの座席からでも沿線の風景を存分に楽しむことができます。

当社の製品はインクジェットプリントモケットのシート表皮とロールカーテン、ウィルトンカーペット、枕カバー、暖簾が採用されております。



〈営業担当者の想い〉  
東日本車両営業部  
東京車両営業グループ  
奥田 祥人

小田急電鉄(株)様の代名詞とも言えるロマンスカーの受注に向けて、社内一丸となって開発をスタートしました。なかでも一番苦労したのはシート表皮の開発です。お客様のご意向を最大限にアウトプットしたく、インクジェットプリントの特性を活かし何度も試作・提案を繰り返しました。シート表皮のみならず、多くの担当者の想いが詰まった内装をご提案でき、求められる車内空間造りの一助になれたと思います。

引き続き当社の強みでもある内装材のトータルコーディネート提案で、魅力的な商品を提供したいです。

箱根へ旅行に行く際は車内からの景色を堪能し、「優雅な」時間を楽しみたいと思います。

〈デザイン設計者様からのコメント〉  
岡部憲明 アーキテチャーネットワーク様

新型ロマンスカー70000形GSEではプロジェクトを御一緒したことのある岡崎乾二郎氏(造形作家・批評家)に椅子張地のデザインを依頼しました。

風景の中を駆け抜ける列車の座席として、時間と空間の多層的な重なりを表現をコンセプトに二席合わせて一柄という今までに無いアイデアとビビットな色調の提案を頂きました。

縫製においては柄あわせが必要で大変苦労しましたが、実際に乗車してみるとお客様の装いと相まって我々のデザインに溶け込み、さらに新機軸の詰まった座席にふさわしい新しいデザインだと感じています。

#### 機能資材関連納入実績

##### 近畿大学共同開発! 会食のお供に「柿ダノミ」

柿ダノミは、奈良県産柿から特許製法により抽出した柿渋を使ったサプリメントです。当社テクニカルセンターでは、奈良県農業研究開発センター他と奈良式柿渋の機能性(消臭・抗アレルギー)について共同研究を行っていた経緯があります。食品原料などの展開を行っていた当部署とテクニカルセンターの連携により、製品の開発をスタートいたしました。

平成28年度奈良県「高付加価値獲得支援補助金」ご当地食品開発事業」にご採択いただき、「アルコール代謝

促進作用(悪酔い抑制効果)」に関するヒト臨床試験を実施し、「効果」(※自覚アンケート結果から、飲酒後の「だるさ」および「胃のむかつき」などに有意な差を確認)と「安全性」を確認しております。

また、製品の製造管理から品質管理まで、健康食品GMP認定を受けた工場が徹底マネジメントしております。持ち運びに便利な個包・タブレットタイプの商品です。近畿大学農学部との共同開発により生まれた柿ダノミは、会食の多い方・やっぱり飲みたい方におススメです。



〈営業担当者の想い〉  
住江織物(株)  
新規事業推進統括室  
大槻 裕規

柿ダノミは、当社ブランドとして初となる健康食品です。製品形状の決定やオンラインショップ立ち上げなど、一から作り上げていくことの難しさを痛感いたしました。販路開拓においても思うように進まず、苦しい時期もありましたが、柿ダノミの良さをご理解いただき応援してくださる方々のお力添えもあり、奈良県を中心にドラッグストア、物産展、飲食店などで展開が開始され、現在では近畿圏・首都圏と展開エリアも広がっております。店頭で商品を見た時の喜びはこの上ないものでした。

今後も柿ダノミファンを増やし、長く愛され続ける商品へと育てていきたいと思ひます。また食品事業拡大に向け、第2・第3の新商品開発を目指してまいります。



〈共同研究開発者様からのコメント〉  
近畿大学 農学部  
食品栄養学科 栄養機能学研究室  
(近畿大学アグリ技術革新研究所 兼務)  
米谷 俊 教授

当研究室では、奈良の特産品「柿」に豊富に含まれるポリフェノール(タンニン)の血糖値上昇抑制作用について研究し、2000万人の糖尿病患者およびその予備軍の食後血糖値の改善に貢献したいと考えています。住江織物(株)さんの「衣食住」それぞれでアメニティを提供したいとのお考えに共感し、「食」の分野で共同研究させていただいております。

現在、その実用化に向けて進めていますが、その過程で柿ポリフェノールに悪酔い抑制作用があるというエビデンスを得ることができ、まず「柿ダノミ」を製品化することができました。親密な共同研究体制を作っていただいたおかげで、迅速な実用化ができ感謝しています。



# 従業員とともに

住江織物グループは、企業の持続的成長の源泉は人材であり、一人ひとりが能力を最大限発揮し成長することが重要と考えております。性別・年齢・国籍を超えて多様な人材がいきいきと活躍できる環境をつくっていくことを大切に取り組んでおります。

## 多様性の尊重

### ●新卒採用者数

当社国内グループの2018年4月新卒入社者は41名で、女性比率は48.8%、過去3年の女性比率は40.8%となっております。※新卒採用実績：住江織物(株)、(株)スミノエ、ルノン(株)、住江物流(株)、丹後テクスタイル(株)、住江テクノ(株)、尾張整染(株)

|        |    | 2016年4月 | 2017年4月 | 2018年4月 |
|--------|----|---------|---------|---------|
| 新卒採用者数 | 男性 | 13      | 24      | 21      |
|        | 女性 | 8       | 12      | 20      |

### ●育児・介護について

出産・育児・介護による退職を防ぎ、仕事と家庭を両立させることで安心して働けるように、国内グループ各社において支援制度の拡充を進めるとともに、その制度を利用しやすい環境づくりに取り組んでおります。

### ■人事・労務に関する主な実績データの推移(国内グループ)

|         |                        | 2015年度 | 2016年度 | 2017年度 |
|---------|------------------------|--------|--------|--------|
| 育児休業関係※ | 育児休業 取得者数              | 5      | 8      | 9      |
|         | 育児休業 復帰者数              | 7      | 6      | 8      |
|         | 短時間勤務 取得者数             | 13     | 3      | 10     |
|         | 始業・終業時刻の繰り上げ・繰り下げ 取得者数 | 6      | 3      | 1      |
| 介護休業関係※ | 介護休業 取得者数              | 0      | 0      | 0      |
|         | 短時間勤務 取得者数             | 1      | 1      | 0      |

※各年度5月末時点の実績  
(2017年度より取得(復職)したタイミングでカウント)

## 人材育成(研修体系・実績)

研修体系は、階層別、役割別、選択型に区分けし、様々なカリキュラムを用意しております。例えば、階層別研修の若手社員については、入社から3年間、各年次で研修を開催しており、新入社員研修後は2年目・3年目に集合研修を行っております。

2018年度の3年次研修では、「モチベーションマネジメントと役割認識」というテーマで、入社してからこれまでを振り返り、出来るようになったことや現状の課題を整理することで、モチベーションをコントロールできるようになること、また周囲からの期待を認識し、3年次の社員として自身が取り組んでいく目標を設定するという内容で実施いたしました。国内グループ会社合同で研修を実施することによって、グループ社員同士の交流の場にもなっております。



3年次研修

### ■研修受講者の実績(2017年度)

| 研修体系                       |      | 計   | 男性  | 女性 |
|----------------------------|------|-----|-----|----|
| 階層別、役割別<br>選択型<br>(スキルアップ) | 集合研修 | 173 | 139 | 34 |
|                            | 通信教育 | 98  | 59  | 39 |
| 選択型<br>(自己啓発)              | 語学研修 | 13  | 9   | 4  |

### 〈3年次研修に参加して〉

3年次研修を受けるにあたり、自分自身を客観的に見つめ直し、今後のキャリアについて考える良い機会にしたいと楽しみにしておりました。

研修では様々な演習、意見交換を通して自分が日頃仕事において気をつけていること、また気をつけなければならないことを再認識でき、今後仕事でどのように活躍していきたいのかを深く考えることが出来ました。また、日頃業務であまり接することのないグループ会社や他部署の同期と交流することで、同世代の仲間がどのようなことを考えながら仕事を行っているか知ることができ、良い刺激となりました。

今回の研修で学んだこと、気付かされたことを活かしこれからの仕事に取り組んでいきたいです。

住江織物(株)  
機能資材事業部 大阪第2営業部  
清水 啓史



## 労働安全衛生(安全活動の取り組み)

当社グループでは、各事業所において安全衛生委員会(小規模事業所では安全衛生推進者)が主体となって労働災害の撲滅に取り組んでおります。

中央安全衛生部会では、各事業所で実施している「安全衛生に関する提案事例」「現場での注意喚起事例」などの情報の集約および共有を行い、労働災害の未然防止活動を推進いたしました。その結果、休業災害件数は減少いたしました。しかし、不休災害件数および労働災害件数は大幅に増加し、今期目標「休業件数度数率



〈住江テクノ(株)奈良工場〉階段の手すりに注意喚起ステッカーを貼付

## 労働安全衛生(労働時間管理)

CSR推進委員会のもと設置している人事第1部会では、労働時間の現状把握を定期的の実施しており、その結果を踏まえ長時間労働改善の検討を行っております。在社時間が長時間である社員と上司へその理由と改善施策のヒアリングを実施した他、朝礼時にノー残業推進デーの呼びかけを繰り返すことにより、効果が表れてくる

## 労働安全衛生(ハラスメント防止)

働きやすい職場環境づくりの一つとして、ハラスメント防止研修を実施しており、3年間で22拠点1,252名が受講いたしました。2017年度は3年間で実施出来なかった少人数の拠点を中心に実施いたしました。

講師より、職場で起こりやすいハラスメント事例や働きやすさアンケート(P.22)の結果報告、相談を受けた時の

## 未来塾

経営層と若手・中堅社員の語らいの場づくりと視野拡大を目的として希望者を募り、「未来塾」を住江織物(株)本社ビルにて開催いたしました。

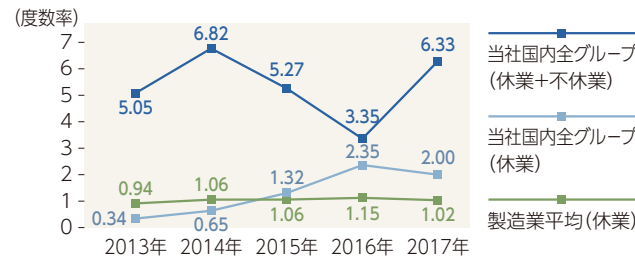
第三期となる今回は、社長および取締役より当社グループの現状と今後の事業展開、会計知識についての講義がありました。質疑応答では、参加者が各部門で感じている疑問や悩み、今後のグローバル展開など様々な質問が挙がり、経営層の考えを聞く貴重な時間になりました。

講義終了後は、立食形式での会食が行われ、経営層と参加者が気軽に意見交換をしながら交流を深める有意義な時間になりました。また、グループ会社の社員同士

1.0以下]はクリア出来ませんでした。

今後はリスクアセスメントを行い、労働災害低減措置を各事業所と協議し、リスクの低減および事故再発防止を徹底いたします。

### ■国内グループ 労働災害度数率※推移



出典：厚生労働省「平成29年労働災害動向調査」  
※労働災害度数率：100万労働時間あたりの労働災害による死傷者数

ようになりました。また、働きやすさアンケート(P.22)の内、労働時間に関する回答においても以前より改善されてきたとの結果がでてきております。

今後は、再発防止プロジェクトによる業務実態の把握や情報基盤の整備と並行して進めることで、根本的な労働時間の改善を行ってまいります。

対応、被害を受けた時の相談窓口の利用方法などの講義が行われました。研修参加者からは、「ハラスメントの定義がよくわかった」「身近に相談窓口があることがわかったので活用していきたい」などのコメントがありました。

今後も継続して啓発活動を行ってまいります。

の交流の場としても良い機会となり、今後も引き続き開催してまいります。





### 女性活躍推進・両立支援

2016年3月に住江織物(株)および(株)スミノエで策定した女性活躍推進計画の進捗をご報告いたします。

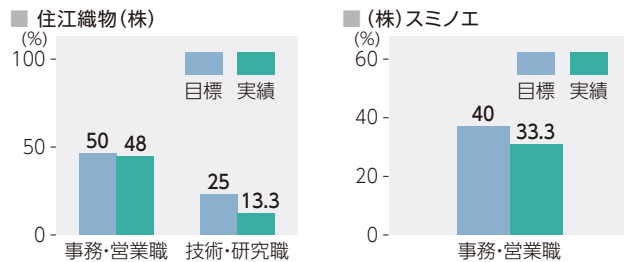
1. 計画期間：2016年4月1日～2018年5月31日

2. 目標と進捗状況

目標1：新卒採用における女性採用比率

住江織物(株)・・・事務・営業職 50%以上、技術・研究職 25%以上  
(株)スミノエ・・・事務・営業職 40%以上

■ 新卒採用(2016年～2018年)



目標2：ライフイベントを経ても継続就業し、かつキャリアアップを狙える仕組みづくり

2016年度より継続就業の支援制度を整えてまいりました。育児休業復帰後も両立して働く社員が年々増えて

きております。次の管理職を狙える中堅以下の層も2年間で徐々に増えてきておりますが、男性社員と比較すると依然として少ないのが現状です。

目標3：社員意識調査(働きやすさアンケート)の女性活躍に関する設問ポイント0.1Up

残念ながら設問ポイントは年々少しずつ下がってきており、改善されているという印象はありません。

【新たな行動計画】

1. 計画期間：2018年6月1日～2020年5月31日

2. 目標：前回の目標を2年間取り組んでまいります。

女性社員の積極的採用、ライフイベントを経ても継続就業が可能な両立支援制度をさらに充実させ、能力発揮・キャリアアップが狙える環境づくりとしては、社員一人ひとりが活躍出来る育成を考えながら取り組みを進めてまいります。

### 女性活躍インタビュー



(株)スミノエ 東日本支社 管理部  
山崎 清香

熱意をもって仕事をしていく

私の主な仕事は、営業部門の売上传票と納品書の原価や数量を突合せ、正しく売上処理することです。ミスなく正確にやり遂げ営業部の人から「ありがとう」と言われたときはやりがいを感じる瞬間です。

多くの部署の人と関わる業務のため、積極的に意思疎通を図ることや熱意をもって相手に伝えること、相手の意図を汲み取って少し先のことまで考えることを心掛けています。

扱う製品についての苦労話や本音、こぼれ話まで聞けると楽しいですし、担当者と深い繋がりができているなど嬉しく思います。

信頼を原動力に

売上に関する業務の他にも、新卒の採用や会社行事の受付など総務関連の仕事も幅広くしています。これらを並行して進めるときはスケジュール管理が大変ですが、

私自身人と関わるのが好きなので様々な人と一緒に仕事ができる今の業務が好きです。特に同僚や後輩には積極的に声を掛け、お互いに頼れる関係を築けるように心掛けています。

最近は仕事を任されたり問合せを受ける機会も増えて頼りにされていることを実感しています。信頼に応えるため、日々努力していくことが原動力になっています。

後輩をリードできる存在を目指して

他社の女性社員が集まる研修に1年間参加しました。ここではキャリアアップを目指す女性や子育てしながら働く女性との意見交換ができ、とても刺激を受けました。これまで「仕事で頼られる人になりたい」と思いモチベーション高く仕事をしてきました。今後はより広い知識を身につけ、女性活躍の先駆けとなって後輩をリードしていけるような存在を目指していきたいです。



### シニア社員の活躍



住江物流(株)伊勢原センター  
安藤 浩治

1977年 住江神奈川インテリアサービス(現:住江物流(株)伊勢原センター)入社  
2006年 住江物流(株)伊勢原センターセンター長  
2014年 定年

普段どのような心構えで仕事をしていますか？

現在、インテリア製品の入出荷に関する業務を行っています。注文いただいた物を的確にお客様の元にお届けするため、効率よく正確に業務をこなすことが求められます。

心構えですが、私は現在の住江物流(株)の前身である住江神奈川インテリアサービスの時代から勤めており、本当に色々なことを経験してきました。センター長だったときはセンターの運営を任されていたし、知識はまだまだ若い人に負けたくないという気概で今も仕事をしています。

今後は次の世代を担う人にこれまでの経験やノウハウ、仕事を引き継いでいきたいと考えています。

印象に残っている仕事はありますか？

運送会社とのやりとりがスムーズにできておらず、予定の時刻に現場に物が到着していないとの連絡を受けたことがありました。カーペットの施工は夜間に行われ、職人さんもスタンバイしていて、何としてでも現場に物を到着させないといけない状況でした。その時は私も一緒になって物を運び、何とか周囲の協力を得て間に合わせる事ができました。無事施工を終わらせることができたときやっと安堵することができ、とても印象に残っています。

会社人生の中でどんなことを感じましたか？

センター長をしていたときは様々なプレッシャーから悩みが尽きない時期もありました。しかし、「何とかできるだろう!」と自分の中で踏ん切りをつけたことで前向きになれる、この経験から気持ちの切り替えは仕事をする上で本当に大切だと気がきました。

現在は現役時代と違って良い意味でプレッシャーがなくなって心に余裕ができていてと感じています。これまでの自身の経験も活きて、物事をスピーディーに進められるようになりました。また、一緒に仕事をするメンバーと楽しくできるように声を掛けたり、雰囲気づくりを意識するようになりました。

シニアとして働く人へのメッセージ

健康を第一に仕事を続けていくことが大切だと思います。仕事に対する気持ちは同じであっても身体は大切に頑張っていきましょう。

〈同僚からのメッセージ〉

長年にわたってセンター長をされていた経験や知識から様々な面で日々バックアップしていただいており、大変心強い存在です。営業部門出身の私にとって、物流部門の立場としての考え方や仕事の進め方、社員とのコミュニケーションをとりながらセンターをリードしていくことの大切さを教えていただけることは有り難く思っています。

今後もしも多くの知識を引き継いでいきたいと思っています。



住江物流(株)  
伊勢原センター/稲敷センター  
センター長 小木曾 孝司

### 海外現地社員の紹介



インドネシア:  
PT. Sinar Suminoe Indonesia (SSI)



商品管理部

Diana Gunawan

- ① 入社した年 ② 入社した理由
- ③ 仕事内容とおもしろさを感じているところ
- ④ Suminoeのここが好き ⑤ 私の強み
- ⑥ 私を色で表すと ⑦ 地域のおすすめスポット
- ⑧ 好きな食べ物
- ⑨ 私の国で素晴らしい(好きな)ところ
- ⑩ Suminoe グループの社員にひと言

- ① 2012年1月
- ② 大学での専攻とは違う分野でしたが、ファブリックについて学びたいという思いがありました。また、この会社に入社することで私自身にとっても新しいことを取り入れられると思い入社しました。
- ③ 私は商品管理部で顧客からのオーダーに基づき自社と製造会社の間を取り持つ立場にあります。違った個性や視点を持つ2つの部門が協力し合っていくことにおもしろさを感じています。

- ④ 協力し合う文化や職場環境。個人的にも成長でき、互いにサポートする私たちのチームワークはGreat!と感じています。
  - ⑤ 正直であること。フレンドリーなところ。仕事に一生懸命打ち込むところ。
  - ⑥ 勇敢かつ力強いという意味がある赤色
  - ⑦ Tangkuban Perahu Mountain(タンクバンプラフ山)、Pine Forest(パインフォレスト)、Kawah Putih Mountain(カワプティ山)、Floating Market(水上マーケット)、Situ Patenggang Lake(パテンガン湖)など。是非バンドンにお越しください!
  - ⑧ インドネシアの“Fried Rice”(ナシゴレン)
  - ⑨ 仕事において協力し合う(インドネシア語で“Gotong Royong”)文化とおもてなしの文化
  - ⑩ I'm really grateful to be a part of Suminoe group. I hope that our cooperation with other Suminoe group will keep going well. Let's growing together with Suminoe!
- 住江グループの一員になれて非常に光栄です。これからも住江グループとうまく協力し合っていきたいです。Suminoeと共に成長しましょう!



# お取引先様とともに/リスクマネジメント

事業活動にあたり公正かつ自由な競争の維持・促進を努めること、購買業務において法令を遵守することを「住江織物グループ企業行動基準」で定めております。また、リスクマネジメントを重視した経営を行っており、2017年度は国内事業所のリスクアセスメント、海外子会社のリスク、知的財産権などに関する活動を行ってまいりました。

## お取引先様とともに

### 公正な取引(下請法遵守に関わる活動)

当社グループでは、「よい製品を生産し、販売し、社業の隆盛をはかり社会の向上に貢献する」ことを目的としております。この目的を達成するために、〈お取引先様との信頼関係の深化〉を非常に重要なものとして位置づけております。特に、下請法を厳守し、下請取引の適正かつ円滑な運営を図るための諸施策に、継続して取り組んでおります。

一例をご紹介しますと、教育・啓発施策として、下請法違反行為の未然防止や従業員の下請法に関する意識

向上を図るために、CSR推進室法務グループによる「下請法研修」を実施しております。研修では、参加者からの事前質問に対する回答を盛り込むなど、参加者の理解度向上に努めております。2017年度は、3事業所で実施し、延べ13部署58名が参加いたしました。

以上の施策を含め、関連法令等の周知徹底などを今後も継続的に実施し、お取引先様とのより一層の関係強化を目指してまいります。

## リスクマネジメント

### 事業継続計画(BCP※1)の進捗

当社グループでは以前より、災害発生時に企業としての信頼の継続のためには、お客様への迅速で正確な情報発信をキーとして捉え、安否・被災状況などの情報収集を重視したBCP行動計画の策定に取り組んでまいりました。住江織物(株)本社ビルでは、社内緊急連絡ルールに従って社員の安否を確認する「BCP安否確認訓練」を継続して実施し、緊急事態発生時の動作の確認を特に重視しております。

2018年6月に発生した大阪北部地震発生時には、これまでに定めている訓練通りの安否確認方法が機能し、対策本部にて社員全員の安否を速やかに確認することができました。

※1 BCP: Business Continuity Planningの略称で、災害や事故等の緊急事態が発生した際に事業の継続や復旧が速やかに行えるよう策定される計画。

今後は、安否確認訓練をグループ全体に展開し、緊急事態発生時の会社指示の伝達方法と、より確実な安否確認ルールを確立してまいります。



対策本部

### 知的財産権の取り組み

知的財産には特許、実用新案、意匠、商標などがあります。事業を継続的に展開するには、事業計画の基に企画、営業、研究開発、製造が連携し知的財産を権利化すること、そして他社の知的財産を把握し対応することが必要です。これら二つの観点から知的財産のリスクマネジメントに取り組んでおります。

具体的には、社内イントラネット上に「知的財産NEWS」

を発行し、特許出願(発明内容の整理)、商標の類否、特許情報(公報と実施内容の比較)、不正競争防止法などの知的財産教育を行っております。また定期開催している技術会議(奈良・大阪)で、関連特許の紹介や知的財産に関する事柄を紹介しております。

今後も事業分野に係る特許出願・権利化を推進することで、事業を守り競争優位に立つべく推進してまいります。

### 国内事業所のリスク管理

国内事業所のリスクマネジメントについては住江織物(株)およびグループ会社より提出されたリスクに基づき財務諸表の重要な虚偽表示のリスクを中心として把握を進め、そのリスク評価を財務統制委員会にて検討し、経営

会議でも認識しております。国内事業所においては内部統制の運用において、一定レベルまでリスク軽減はできてきておりますが、今後はIT化を推進し各リスクを軽減する体制を確立させてまいります。

### 海外子会社のリスク管理

リスクマネジメント(以下、RM)について、活発な活動を継続しているSPM(中国)と今期から取り組みを開始したSST(インドネシア)の活動状況をご紹介します。

#### SPM(中国): モデルケースとして着手し、RM構築手法を確立し5年目

過去4年間「火災対応」「人材流出の防止」「原価低減」「仕入先管理強化」をテーマとし取り組んでまいりましたが、2017年10月にコンプライアンス徹底のための中長期プランの内部統制再構築の1つとして外部監査法人による監査強化を行った結果、様々な指摘事項を受け内部統制の脆弱な部分が明確となりました。2017年度はその指摘事項をリスクと捉え「企業管理改善および企業リスク回避」を目標とし、指摘事項に対応すべく業務改善に着手いたしました。指摘事項を優先度と難易度で区分し、進捗を毎月RM委員会にて確認し、優先度の高いものおよび容易に着手できるものから取り組み、改善を進めております。

現地往査時の様子

#### ● 産業廃棄物の専用置場確保



改善前

改善後

#### SST(インドネシア): RM導入初年度

住江織物(株)情報管理部主導のもと、5ヵ月間の外部機関による生産革新支援が実施され、その後の状況を現地往査にて評価いたしました。一部乱雑だった自社工場内の状況は改善されましたが、外部倉庫の管理が不十分で棚卸差異の発生原因になっていると判断し、バーコード&ハンディターミナルを使用した棚卸システムの導入手法を提案し実施いたしました。今後はQRコード化および入出庫管理へと展開していく予定です。

#### ● 外部倉庫内の整頓



改善前

改善後

#### ● バーコードを用いた管理



このように、高リスクの領域を対象に効果的かつ効率的な現地往査を実施し、監査視点によるモニタリングも併せて行うことにより、海外子会社のRM強化を図ってまいります。



# KKR+Aのテーマのもとに



## 環境基本理念

近年、地球環境の悪化が急速に進んでいます。その地球にくらしている私たち人類が地球環境の維持と改善に努め、美しい自然を子孫に譲り渡すことは人類共通の使命であります。住江織物はこのことを認識し、従業員全員が環境保全に積極的に取り組むことによって、住みよい豊かな社会をつくります。

## 住江織物グループ環境対策宣言

1998年に発表した環境対策宣言を見直し、2009年に新たな7つの宣言として改訂し着実に推進しております。

### 宣言1 室内環境を改善し、快適な空間を実現します。

タバコ臭やペット臭、生活悪臭に加え、シックハウスの原因となるホルムアルデヒドなどを吸着・分解して消臭する「トリプルフレッシュ®加工」のカーペット、カーテン、壁紙、車両内装品や、アレルギーの働きを抑制する「アレルブロック®加工」、お肌に優しい「スキンケア加工」などにより、安心・快適な空間を実現します。

### 宣言2 循環型社会に対応し、リサイクル材を積極的に採用します。

ペットボトルから製造されたポリエステル系の「スミトロン®」、使用済みタイルカーペットを回収し、リサイクルする「タイルカーペトリサイクルシステム」、リサイクル性に優れた鉄道車両用シートクッション材「スミキューブ®」、ビールケースなどから再生されたPP樹脂の簡易二重床「SEライトN」などリサイクル材を積極的に活用して環境保全と資源の有効利用に取り組んでいます。

### 宣言3 CO<sub>2</sub>削減と環境負荷を低減させる製品を提供します。

地球温暖化防止に向けた低炭素社会実現の一端を担うため、原料、製造、輸送、使用、廃棄といった製品のライフサイクル全体にわたって、環境負荷を総合的かつ定量的に評価するライフサイクルアセスメント(LCA)手法に基づく「ローカーボン製品」を開発・提供いたします。

### 宣言4 安心・安全な素材を使用し、健康と環境に配慮します。

法的な規制はもちろん、シックハウスの原因となるVOCや廃棄時に問題となる重金属などを含まない安心・安全な製品提供とともに、ウール・麻・綿などの天然素材も積極的に活用します。また、火災時に有毒ガスの発生が少ないオレフィン系床材などで、人に優しい製品づくりに努めます。

### 宣言5 製造から製品に至るまで、省資源・省エネルギーに取り組めます。

製造時における材料、副資材、水、エネルギーのロス低減による資源の有効活用を図るとともに、省エネ設備の更新推進、品質向上、製品の軽量化、容器・梱包の簡素化、減量化を図り、輸送効率、使用効率、廃棄効率を追求し、省資源・省エネルギー化を推進いたします。

### 宣言6 最新情報に基づき、環境負荷物質の適正管理を推進します。

製品に使用する材料に対して、特定の化学物質の含有に関する制限が、内外ともに強化されております。この対応として、対象製品すべてにわたって確認し、サプライチェーンマネジメント(SCM)の考え方に基づいた使用材料の適正管理を図るとともに、最新の安全性に関する情報入手・把握に努めます。

### 宣言7 エコを意識した製品を提案・提供します。

製品の見た目や機能面での環境配慮だけでなく、製造の過程で用いる資源やエネルギーなどを最小化し、易リサイクル化、製品の長寿命化、廃棄処理の最適化を見据えた「エコデザイン思想」に基づく、製品およびシステムの提案・提供に努めます。

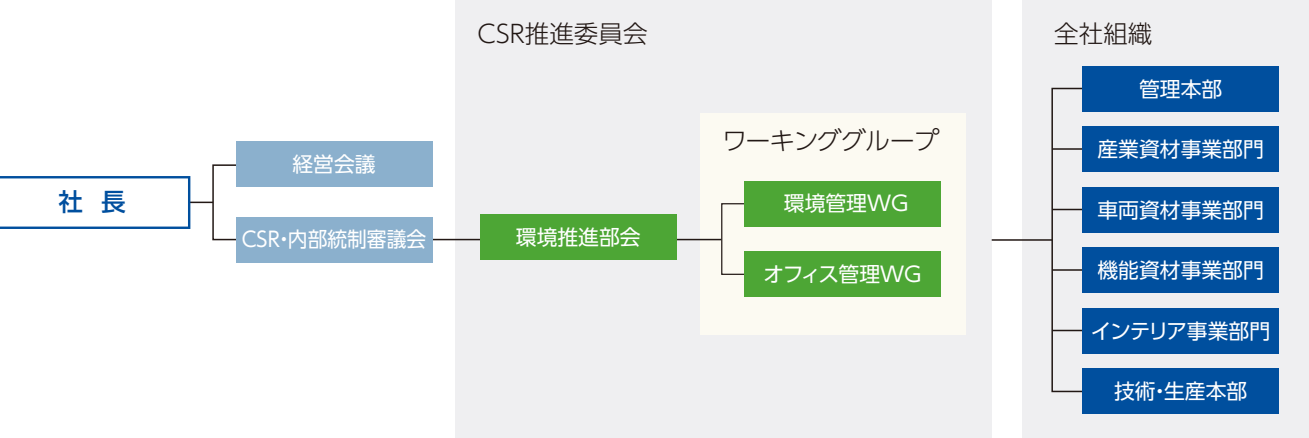
## 行動指針

### 環境保全を実施するにあたって

- 1 私たちは、企業活動全般にわたって環境を汚染することのないように配慮しつつ、積極的に省エネ・省資源・リサイクルを推進します。
- 2 私たちは、環境に配慮した技術と商品を開発することにより、生産から販売、廃棄に至るまで商品ライフサイクルを通して環境保全に努めます。
  - ① 省エネ、省資源技術の開発
  - ② リサイクル技術・リサイクルシステムの開発
  - ③ 環境負荷がより少なく、安全性がより高い原材料への置き換え技術および商品の開発
  - ④ 室内環境を改善し、健康および快適性に貢献する商品の開発
- 3 私たちは、地域社会とのコミュニケーションを通じて社会との共生をはかり、全従業員が小さなことでもできることから行動を起こします。
- 4 私たちは、環境保全推進のため社内体制の整備と、全従業員の環境意識の高揚に努めます。

## 環境推進体制

CSR推進委員会内に環境推進部会を置き、立案・決定された環境施策を全社組織で実行しております。



## 環境マネジメントシステムの導入状況

2000年度に生産事業所である奈良事業所がグループとして初めてISO14001認証を取得。その後順次導入し現在国内の5生産事業所においてISO14001の認証を、1事業所でエコ・アクション21の認証を取得しております。

|        | ISO14001:2015 |               |                | エコ・アクション21:2009 |
|--------|---------------|---------------|----------------|-----------------|
|        | 奈良事業所・滋賀事業所   | 帝人テクロス(株)     | 尾張整染(株)本社・石川工場 | 丹後テクスタイル(株)     |
| 審査登録機関 | 日本規格協会        | 日本品質保証機構      | 日本品質保証機構       | 持続性推進機構         |
| 登録番号   | JSAE 235      | JQA-EM1519    | JQA-EM3114     | 0009522         |
| 登録     | 2000年5月       | 2001年4月       | 2003年3月        | 2013年7月         |
| 更新     | 第6回済(2018年5月) | 第5回済(2016年4月) | 第5回済(2017年7月)  | 第2回済(2017年7月)   |



# 第4次中期行動目標 —エコチャレンジ2018—

# エコチャレンジ2018 (2017年度実績)

## 環境との関わり

当社グループの事業と環境とは、製品の開発設計から資材調達・生産・販売・物流、そして使用・廃棄・リサイクルまでのライフサイクル全体を通して、また日頃の事業活動においても深い関わりをもっています。

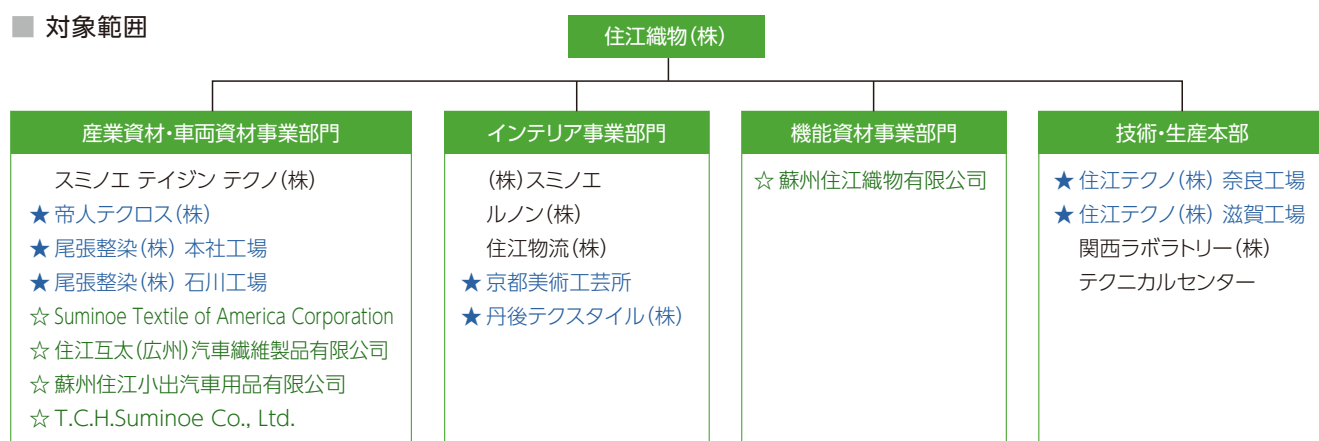
当社グループでは、製品のライフサイクル、また事業活動全体が環境に与える影響を把握するよう努め、環境負荷低減に取り組んでおります。特に、使用済みタイルカーペットから再生された塩ビパウダーや、ペットボトルから再生された原綿やポリエステルペレットなどの再生材料を積極的に使用するなど、環境に優しい製品づくりを進めております。CSR活動においても環境配慮に重点を置き、“エコチャレンジ2018”の目標を掲げ、全グループで取り組んでおります。

## エコチャレンジ2018(第4次中期行動目標)

環境に関する第4次中期行動目標として、エコチャレンジ2018を設定しております。

2015～2017年度の3か年を行動期間として取り組みを進めております。

### ■ 対象範囲



★ 国内生産事業所：再生資源利用、産業廃棄物発生量(再資源化率、埋立処分率)、PRTRの対象

☆ 海外生産事業所：使用エネルギー、水使用量のみ対象

■ 期 間：2015年度～2017年度(3年計画、データ期間2015年6月～2018年5月)

### ■ 行動目標と2017年度実績

○:達成 △:一部事業所で未達 ×:未達

| No | 取り組み項目                |                  | 最終目標値          | 基準年度  | 2017年度目標値 | 2017年度実績 | 評価 |
|----|-----------------------|------------------|----------------|-------|-----------|----------|----|
| 1  | 地球温暖化防止               | 使用エネルギーの削減       | 3%削減(原単位)      | 2014年 | -3%       | -10.1%   | ○  |
|    |                       | 社有車の燃料使用量の削減     | 3%削減(原単位)      | 2014年 | -3%       | -27.4%   | ○  |
| 2  | 省資源                   | 水使用量の削減          | 3%削減(原単位)      | 2014年 | -3%       | 3.8%     | △  |
|    |                       | 再生資源利用率の向上       | 3%向上           | 2014年 | 3%        | 0.9%     | △  |
| 3  | 廃棄物の3R                | 産業廃棄物発生量の削減      | 3%削減(原単位)      | 2014年 | -3%       | -4.9%    | ○  |
|    |                       | 再資源化率の向上         | 65%以上          | -     | 65%以上     | 67.9%    | ○  |
|    |                       | 埋立処分率の低減         | 10%以下          | -     | 10%以下     | 10.9%    | △  |
| 4  | 環境汚染防止                | 大気汚染防止(NOx排出量削減) | 3%削減(原単位)      | 2014年 | -3%       | -5.8%    | ○  |
|    |                       | PRTR取り扱い量の削減     | 3%削減(原単位)      | 2014年 | -3%       | -14.5%   | ○  |
| 5  | グリーン活動推進              | 事務用品のグリーン購入率向上   | 95%以上          | -     | 95%以上     | 87.6%    | △  |
|    |                       | コピー用紙使用量の削減      | 3%削減(総量)       | 2014年 | -3%       | 5.1%     | △  |
| 6  | 製品のLCA評価促進            |                  | LCA評価 18アイテム   | -     | 6アイテム     | 34アイテム   | ○  |
| 7  |                       | 環境に配慮した技術の開発促進   | 3件             | -     | 1件        | 1件       | ○  |
|    |                       | 環境に配慮した製品の開発促進   | 9件             | -     | 3件        | 3件       | ○  |
| 8  | 事業活動における生物多様性の保全活動    |                  | -              | -     | -         | -        | -  |
| 9  | 海外生産事業所における環境負荷の集約と低減 |                  | 全海外生産事業所のデータ集約 | 2014年 | +2社       | 0社       | ×  |

■ 原 単 位：分母を連結売上高にして計算する。

■ 換算係数：CO<sub>2</sub>排出量は温対法に基づく排出係数で算出。NO<sub>x</sub>の換算係数はエコアクション21 2002年版で算出。海外生産事業所のCO<sub>2</sub>排出量は、GHGプロトコルの2007年の各国ごとの排出係数で算出。

2017年度実績を使用(インプット)と排出・発生(アウトプット)に分類して掲載しております。

チャレンジ3か年の取り組みで、地球温暖化防止・環境汚染防止など、大きな成果を上げることができました。

## INPUT

### 使用エネルギーの削減

地球温暖化防止

省エネ活動の成果を、使用エネルギーの熱量換算値※で確認しております。行動期間を通して目標を達成いたしました。

※熱量換算値：単位=GJ[ギガジュール]

#### ■ 使用エネルギー(熱量換算値)の推移 [海外含む]

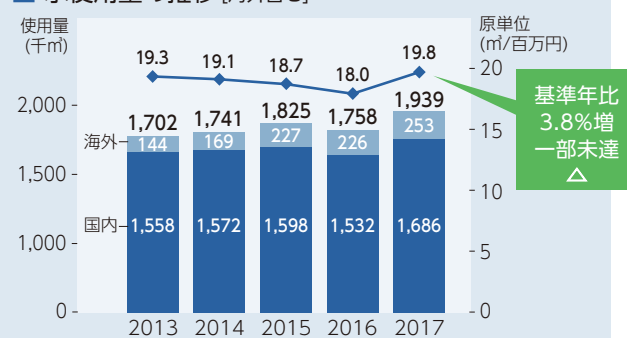


### 水使用量の削減

省資源

冷却水の循環利用などに努めております。2017年度は自動車関連の生産増加が水使用量に影響を及ぼしました。

#### ■ 水使用量の推移 [海外含む]



### 再生資源利用率の向上

省資源

再生資源を原材料に積極的に投入、省資源化を進めております。主力工場にて再生資源率の低い製品の製造が増加し、利用率が伸び悩みました。

#### ■ 再生資源利用率の推移



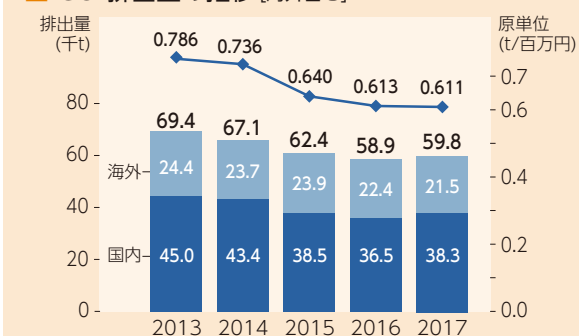
## OUTPUT

### CO<sub>2</sub>排出量の削減

参考データ

企業活動が地球温暖化に及ぼす影響をCO<sub>2</sub>排出量で確認しております。行動期間中、大きく削減いたしました。

#### ■ CO<sub>2</sub>排出量の推移 [海外含む]

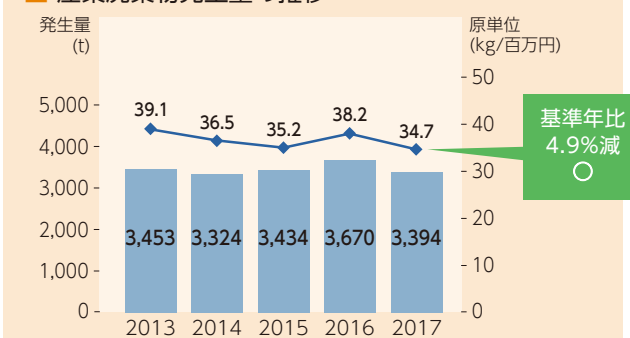


### 産業廃棄物発生量の削減

廃棄物の3R

生産に投入される材料のロス削減や不適合品の撲滅、また資源の有効活用など、廃棄物発生の抑制に今後も努めてまいります。

#### ■ 産業廃棄物発生量の推移

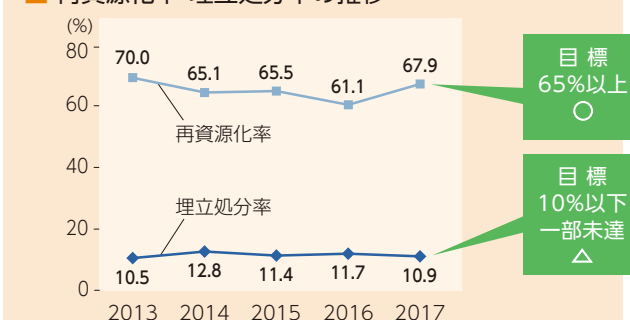


### 再資源化率の向上・埋立処分率の低減

廃棄物の3R

埋立処分率で一部未達となりましたが、長期的な改善傾向を維持するべく努めてまいります。

#### ■ 再資源化率・埋立処分率の推移





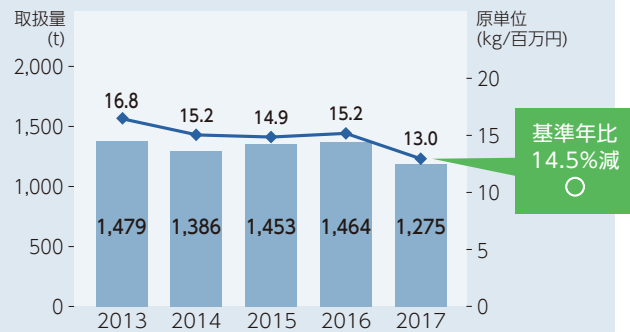
## INPUT

### PRTR取扱量の削減

環境汚染防止

難燃剤のDBDE(デカブロモジフェニルエーテル)やフッ素系撥水剤のPFOA(ペルフルオロオクタン酸)などが各種規制により将来的に使用制限されるため、より安全な代替物質に置き換えつつあります。

#### PRTR取り扱い量の推移



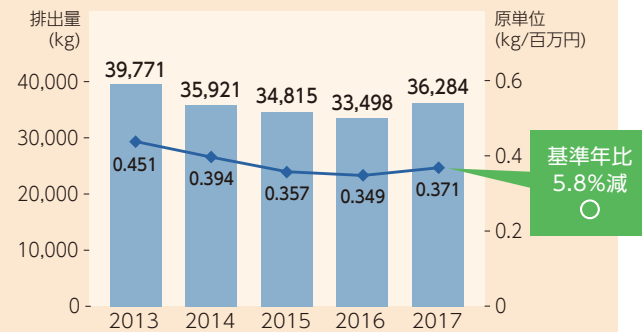
## OUTPUT

### 大気汚染物質排出量の削減

環境汚染防止

大気汚染物質には、窒素酸化物(NOx)、硫黄酸化物(SOx)、粉じんなどがありますが、代表としてNOxを記載しております。NOxの排出量は、エコアクション21の2002年版の低減対策が行われていない施設の排出係数で算出しております。

#### Nox排出量の推移



## GREEN PURCHASING

当社グループでは、生産・製造以外を含めた全ての事業活動にわたり、環境に配慮した取り組みを進めております。

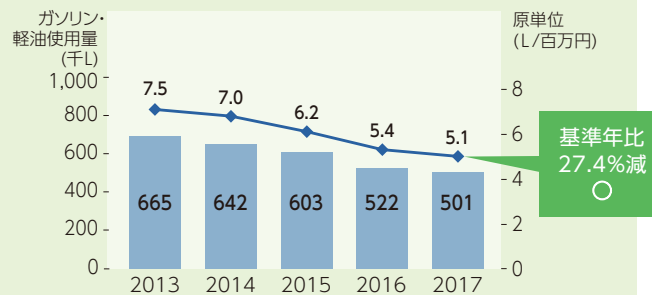
### 社有車の燃料使用量の削減

地球温暖化防止

エコドライブの推進、またエコカーへの積極的な転換を進めるなど、社有車の燃料使用量の削減に努めております。

エコチャレンジ2018の行動期間中を通して順調に推移し目標を達成いたしました。

#### 社有車の燃料使用量の推移



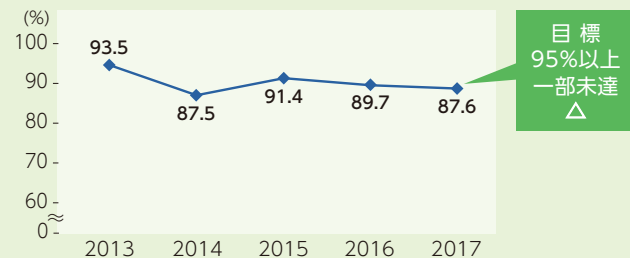
### 事務用品のグリーン購入率向上

グリーン活動の推進

資源採取から廃棄に至る、ライフサイクル全体にわたる環境負荷の低減を考慮した物品などの、積極的な購入に努めております。

一部目標未達の事業所の取り組み強化など、今後の推進力を高めてまいります。

#### 事務用品のグリーン購入率の推移

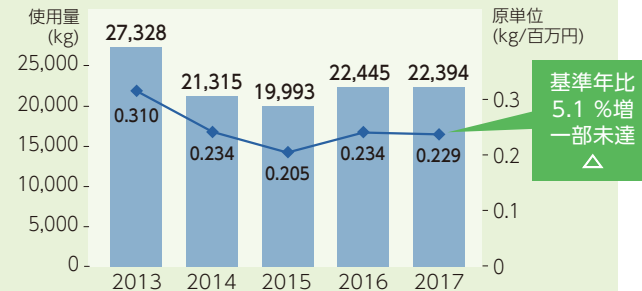


### コピー用紙の使用量の削減

グリーン活動の推進

イントラネットの普及や裏紙の利用などにより、コピー用紙使用量の削減を推進しております。長期的な削減傾向を維持すべく今後も努めてまいります。

#### コピー用紙の使用量の推移



### 製品のLCA評価促進

#### 製品のLCA※評価促進(目標6アイテム)

製品のLCA評価を自社内で行う体制を整え、2015～2017年度の3か年で18アイテムの評価を目標に掲げております。2017年度は単年度目標6アイテムのところ、水平循環型リサイクルタイルカーペット「ECOS®(エコス)」について7マーク34アイテムの評価を行いました。

※LCA：製品の原材料調達から、生産、流通、使用、廃棄に至るまでのライフサイクルにおける投入資源、環境負荷およびそれらによる地球や生態系への潜在的な環境影響を定量的に評価する手法、ライフサイクルアセスメントの略称。



34アイテム  
目標達成  
○

### 環境に配慮した技術の開発促進・環境に配慮した製品の開発促進

#### 環境に配慮した技術の開発促進(目標1件)

##### 1 トリプルフレッシュ®ケア

介護の現場で使用するカーテン向けに、介護に関するにおいに優れた効果を示す消臭機能と、防炎性能を合わせた加工技術を開発。

1件  
目標達成  
○

#### 環境に配慮した製品の開発促進(目標3件)

- 夏場に光を遮り、冬場には光を取り入れるボイルカーテン「スマートヴェール」
- 摘果柿から抽出した柿ポリフェノールを原材料に使用した「柿ダノミ」
- 再生紙85%以上、環境に優しい印刷技術の襖紙「ルノン 凜」

3件  
目標達成  
○

### 事業活動における生物多様性の保全活動

2011年度に生物多様性の保全活動について取り組み方針を策定し、2013年度から事業所毎に特色のある活動を実施しております。

#### 取り組み方針

##### 1 事業活動が生物多様性に及ぼす影響の低減

- 生産事業所内および周辺での生物多様性のモニタリング調査を行う。
- 植樹を行う場合は、外来種ではなく、地域に自生している在来種を使う。
- 事業所周辺の清掃を定期的に行い、草刈りなどで環境を整備する。
- 生物資源を原材料として使用する場合は、その持続可能性を確認する。
- リサイクル原材料を使用した製品開発とリサイクルシステムの構築を積極的に行う。
- 環境マネジメントシステムに生物多様性の保全活動を組み入れる。
- 事業所毎に取り組める新たな生物多様性の保全活動を推進する。

##### 2 サプライチェーン全体での生物多様性への影響低減にむけた取引先様への活動

- グリーン調達ガイドラインで、取引先様への生物多様性保全活動の協力を依頼する。

##### 3 社会貢献活動

- 森林保全活動を行う団体を支援する。
- みどりの募金活動に協力する。

#### 取り組み実績

##### 〈住江織物(株)奈良事業所〉

事業所の南を流れる岡崎川(奈良県・安堵町)周辺を桜並木の遊歩道に整備する「安堵桜友会」に参加し、桜の手入れなど協力しております。

##### 〈住江テクノ(株)滋賀工場〉

地元甲賀市の花「ささゆり」は、人と自然の共生の象徴とされていますが、近年その数が減少しています。

住江テクノ(株)滋賀工場では、ささゆりを育てて敷地内に地植えするなど増殖に取り組み、毎年美しい花を咲かせています。

##### 〈尾張整染(株)本社工場〉

木曽川などでホタル飼育に取り組む「一宮平成ホタルの会」に賛助会員として参加しております。





# 社会貢献活動

地域の皆さまとともに生きる企業市民として、社会と積極的に関わりを持ち、地域の環境保全および活性化に取り組んでまいります。

## 地域清掃活動

周辺地域の美化を目的に、各事業所で清掃活動に参加いたしました。  
従業員一人ひとりが環境への高い意識を持ち、継続的に活動に参加してまいります。



帝人テクロス(株)  
「ごみゼロ運動いなざわ」  
2018年5月 50名参加



尾張整染(株)  
町内側溝清掃  
2017年6月 約60名参加



## 教育機関との連携（企業訪問）

住江織物(株)東京支店では、近隣の学校がキャリア教育の一環として推進する「企業訪問」に協力しております。

2017年9月には6名の学生が東京支店を訪れ、実物のカーテンやラグマットを使用したインテリアコーディネート体験と「企業のあり方とは何か」「なぜ勉強するのか」など広い視点から社会を学ぶためのディスカッションを行いました。

参加した学生からは「校長室を想定したコーディネートが楽しかった」「企業訪問での体験を将来に活かしていきたい」などの感想をいただきました。



カーテンの取り付けを体験する様子

## 卒業資格取得のサポート

メキシコでは小学校は義務教育ですが約10%の生徒が中退してしまい、特にSuminoe Textile de Mexico, S.A.de C.V.〈STM〉のあるグアナフアト州はその割合が高いのが現状です。STMは、企業内でそうした社員に卒業試験を受ける機会を提供し資格取得を促進する州のプログラムをサポートしております。

2017年度は社内では5名が受験し全員合格しました。合格後には「自分自身にも自信が持て、家族とも喜びを分かち合えた」との嬉しい声を聞くことができました。このうち2名はさらに中学校卒業資格取得に向けて勉強中です。



### 歴史コラム その五

## 昭和－後期 ～経済成長の風に乗って～

新宮殿の造営にあたって内装品納入のご用命を賜り、半世紀の伝統に培われた技術を集結し製作にあたる。

1971(昭和46)年 奈良工場が完成。新設のタフティングマシンが針をさすリズムカルな音が工場に響いた。



豊明殿  
手織り絨通

## 当社OBに聞く、昭和時代の住江織物

135年にわたる住江織物の歴史の一幕を築いてきた当社OBを訪問し当時の仕事や住江織物について伺いました。

一番印象に残っている仕事と言えばやっぱり新宮殿のことだと思う。正殿の壁面は我々が製作した、松のデザインを配した幅約3m、長さ約4mの紋織物※1である。1966年の試作から始まって、本番の納入までは緊張の連続だったが、立派な物を納めさせてもらったと自負している。特に、大食堂※2の天井には煌びやかなシャンデリアが、床面には杉山寧氏デザインの住江織物製のカーペットが納入され、それは圧巻の雰囲気だった。

式年遷宮の御装束・御神宝の製作には光栄なことに私自身2回携わることができた。物を納めるまでは本当に大変だったが、今思い返すと素晴らしい仕事をさせてもらえて光栄だった。

その他に、技術者として技術士という国家資格を取得したことで色々な人と関わりを持って、仕事でも役立った。

当時の工場は、ベテランの技術者や遠方から来て働いている人も多かった。職場の仲間とは、30代の頃、登山グループを作ってよく山に出掛けたのが思い出に残っている。

※1 紋織物:色々な組織を組み合わせ、また色糸を使用するなどして文様を織り出すこと  
※2 大食堂:皇居の中にあり晩餐会が行われる場所

鵜飼 達二さん

昭和22年に入社。30余年にわたり住吉工場、河内工場、京都工場にてモケットやカーペット、ドレープの製造に携わり、その後デザインの仕事にも従事。  
その後も幡(ばん)と呼ばれる皇居に掲げる旗の組成を調べる業務で会社に貢献した。



## 編集後記

「CSRレポート2018」をお読みいただき、ありがとうございます。

今回は、新たに策定したCSR中期計画を掲載いたしました。この計画は、レポートの国際ガイドラインを参考にし、当社グループが2年間にわたって注力する事項を選定したものです。今後は再発防止中長期プランとCSR中期計画の着実な推進で企業価値向上を図り、皆さ

まから信頼される企業を目指してまいります。つきましては、今後の参考とさせていただくため、当社グループのCSR活動について忌憚ないご意見をアンケートにてお寄せいただけますと幸いです。

最後になりましたが、この場をお借りして、本レポートの発行にあたって多大なご理解とご協力をいただいた方々に感謝申し上げます。

CSR推進室 杉山 千咲



CSRレポート作成メンバーによる、原稿作成会議